

官報

號外 昭和十年三月十四日

○第六十七回貴族院議事速記録第十六號

帝國議會

昭和十年三月十三日(水曜日)午前十時二十四分開議

議事日程 第十六號

昭和十年三月十三日

午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 昭和十年度一般會計歲出入財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第三 昭和七年法律第一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 日本銀行納付金法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 臨時利得稅法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第六 兵役法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第七 勞働者災害扶助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 工場法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第九 鑛業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 議院法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第十一 長崎縣日島郵便局ニ電信電話事務開始ノ請願 會 議

第十二 北海道、北鮮間ニ國費補助命令定期航路開設ノ請願 會 議

第十三 第二期林野治水計畫實現促進ニ關スル請願 會 議

第十四 財團法人日本少年指導會ニ對シ國庫補助ノ請願 會 議

第十五 森林火災保險國營ノ請願 會 議

第十六 靜岡縣榛原郡下川根村ニ登記所設置ノ請願 會 議

第十七 林道開設助成ニ關スル請願 會 議

第十八 林野整備促進ニ關スル請願 會 議

第十九 最上川改修ニ關スル請願 會 議

第二十 戰公傷病死者並傷痍軍人ノ遺族扶助料ニ關スル請願 會 議

第二十一 紀勢鐵道速成ニ關スル請願 會 議

第二十二 地方財政調整交付金制度設定ノ請願 會 議

第二十三 愛知縣南設樂郡海老町ニ區裁判所出張所設置ノ請願 會 議

第二十四 矢島線鐵道速成ノ請願 會 議

第二十五 北海道江差、瀬棚間鐵道敷設ノ請願 會 議

第二十六 函館驛改築ノ請願 會 議

第二十七 函館港修築ニ關スル請願 會 議

第二十八 臘虎、臘肭獸ノ獵獲解禁ノ請願 會 議

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス

(角倉書記官朗讀)

一昨十一日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和九年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)

昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和八年度歲入歲出總決算、昭和八年度各特別會計歲入歲出決算審査報告書

昭和八年度國有財産増減總計算書審査報告書

兵役法中改正法律案可決報告書

勞働者災害扶助法中改正法律案可決報告書

工場法中改正法律案可決報告書

鑛業法中改正法律案可決報告書

昨十二日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十年度一般會計歲出入財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

日本銀行納付金法中改正法律案

臨時利得稅法案

同日酒造組合法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 子爵大河内輝耕君

副委員長 男爵高崎 弓彦君

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第六十七回帝國議會陸軍省所管事務政府委員

陸軍省法務局長 大山 文雄君

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、請願委員長報告、委員長酒井伯爵

(伯爵酒井忠克君演壇ニ登ル)

○伯爵酒井忠克君 第二回ノ御報告ヲ致シマス、第一回ノ御報告ヲ致シマシタル以後ニ於テ、受領イタシマシタ請願ノ件數ガ三百二十件ゴザリマス、其連署人數ハ五十五萬一千四百四十八名ゴザリマス、第一回報告ノ際ニ、文書表ニ掲載セラレザリシモノガ八件ゴザリマシタカラ、第一回報告後ニ受領イタシマシタ三百二十件ト合シマスルト、合計三百二十八件ト相成リマス、右ノ中請願文書表掲載件數ガ第五回、第六回、第七回ノ三回ニ於キマシテ、二百三十七件、此外ニ第一回報告ノ際ニ文書表ニ掲載イタシマシタモノノ中デ、審査未了ニ屬スルモノガ百三件ゴザリマス、之ヲ合計イタシマスルト、三百四十件ト相成ル次第ゴザリマス、而シテ請願文書表報告ハ第五回、第六回、第七回ノ三回、請願委員會ノ特別報告ハ第三號、第四號、第五號ノ三回提出イタシテゴザリマス、請願委員會ハ二月十五

日、二月二十日……開達ヒマシタ、二月二十二日、三月九日ノ三回開會イタシマシテ、其間ニ分科會ハ第一分科、第二分科、第三分科、第四分科トモ四回ツツ開會イタシテ居リマス、サウシテ委員會ニ於キマシテ、先程申述ベマシタ請願諸件ニ付キマシテ、慎重審査イタシマシタル結果ト致シマシテ、院議ニ付スベシト決シタモノガ六十二件、院議ニ付スルヲ要セズト決シマシタモノガ十九件ゴザイマス、右ノ十九件ハ第三十五號、第三十七號、第五十一號、第五十四號、第五十五號、第六十三號、第六十五號、第六十六號、第六十七號、第六十八號、第八十八號、第九十七號、第一百二十八號、第三百二十九號、第五百三十三號、第六百六十五號、第六百九十六號、第七百五十號、第七百六十六號、此中ニハ同一趣旨ノ請願ガ八件ゴザイマス、以上ノ審査ノ經過ニ付キマシテ詳細ノ事ハ、速記録ニ付テドウカ御覽ヲ願ヒタイト存ジマス、審査未了ノモノガ二百五十九件、尙ホ請願文書表ニ未掲載ノモノガ九十一件ゴザリマス、以上ハ昭和十年三月十二日午後四時締切迄ノ御報告デゴザリマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第三、昭和七年法律第一號中改正法律案、第一讀會

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十年三月十二日

衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

第一條 政府ハ昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外五億六千五百九十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ昭和十年度一般會計歳出豫算翌年度繰越額ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外昭和十一年度ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金ト通ジテ前條ノ制限額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 前二條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前二條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第一號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十年三月十二日

衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

昭和七年法律第一號中改正法律案
昭和七年法律第一號中左ノ通改正ス
「六億五千萬圓」ヲ「八億二千六十萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

昭和七年法律第一號ハ滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ナリ

○議長(公爵近衛文麿君) 是等ノ兩案ハ、之ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、高橋大藏大臣

(國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル)

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリマシタ昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、提出ノ理由ヲ説明イタシマス、昭和十年度一般會計ニ於テ、既ニ成立シテ居リマスル公債法ニ依リ公債ヲ募集スル金額、竝ニ滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲メ發行スル公債金額ノ外ニ、歳入ノ不足ヲ補填スル爲メ五億六千五百八十餘萬圓ノ公債發行ヲ必要トスルコトハ、曩ニ昭和十年度總豫算ノ大要ヲ説明イタシマシタ際ニ申述ベテ置イタノデアリマスガ、其發行ノ爲ニハ、新ニ起債ノ權能ヲ得ルコトガ必要デアリマス、尙ホ昭和十年度ノ歳出豫算ニ於キマシテモ、其中若干ノ金額ハ、例年ノ如ク翌年度ニ繰越サル結果ニナルノデアラウト存ゼラレマスガ、其繰越額ノ財源ハ、必シモ昭和十年度内ニ起債スルコトヲ必要ト致シマセヌ爲メ、翌年度ニ於テ募集シ得ルコトトナスヲ適當ト認メマス、右ノ理由ニ依リ本法律案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、日程第三ノ、昭和七年法律第一號中改正法律案提出ノ理由ヲ説明イタシマス、滿洲事件ニ關スル經費ニ關シマシテハ、去ル第六十一回、第六十二

回、第六十四回及第六十五回帝國議會ノ協賛ヲ經、其財源ニ充ツル爲メ公債ヲ發行スルコトヲ得ル法律ノ成立ヲ見マシテ、之ニ依リ昭和九年度マデノ經費ヲ支辨シ得ル次第デアリマスガ、昭和十年度分ノ經費トシテ、更ニ一億八千四百三十餘萬圓ヲ必要トスルノデアリマス、右ノ中特別會計ノ分ハ、全部普通財源ヲ以テ支辨スルノデアリマスガ、一般會計ノ分ハ滿洲國國防費分擔金受入等ニ相當スル金額ヲ差引キタル一億七千四十餘萬圓ハ、今日ノ財政情況竝ニ本經費ノ性質ニ鑑ミマシテ、從來ノ如ク之ヲ公債財源ニ依ルコトト致シマシタ爲メ、現行滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律中ノ發行限度ヲ改正增加スルノ必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、何卒右兩案ヲ御審議ノ上協賛セラレムコトヲ希望スル次第デアリマス

○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御質疑ガナケレバ、兩案ハ之ヲ酒造組合法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第四、日本銀行納付金法中改正法律案、第五、臨時利得稅法案、第一讀會

日本銀行納付金法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十年三月十二日

衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

日本銀行納付金法中改正法律案
日本銀行納付金法中左ノ通改正ス
第三項中「及營業收益稅法ニ依ル純益」ヲ

「營業收益稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益」ニ改ム

附則

本法ハ日本銀行昭和十年前事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

臨時利得稅法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十年三月十二日

衆議院議長 濱田 國松

貴族院議長 公爵近衛文麿殿

(小字及——ハ衆議院ノ修正ナリ)

臨時利得稅法案

臨時利得稅法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一 法人ノ利得

二 營業收益稅法第二條ニ掲グル營業(鑛業又ハ砂鑛業ヲ含ム)ニ因ル個人ノ利得

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額中年二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ法人ノ利得金額トス
前項利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ

依リ既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス
一 何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未満ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス
二 法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三 現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ増減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乗ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ヲ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四 現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジテ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本法施行後資本金額ニ増加アリタル場合ニ於テ其ノ資本増加ガ臨時利得稅通脫ノ目的ニ出デタルモノト認メラルトキハ前項第三號ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ増加シタル資本金額ニ付前項第二號ノ規定ヲ準用シ其ノ平均利益ヲ計算ス
本法ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和

十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前二年ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

第五條 法人ノ利益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項ニ於テ積立金額ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

昭和七年一月一日以後本法施行ニ至ル迄ノ間ニ資本金額ヲ減少シタル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ第四條第二項第三號ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ減資前ノ資本金額ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 個人ノ利益ガ昭和六年以前二年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ個人ノ利得金額トス

營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

營業ノ期間ガ一年未満ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以前二年ノ平均利益三千圓未満ナルトキ又ハ其ノ平均利益ナキトキハ三千圓ヲ以テ平均利益トス

第十條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

第十一條 個人ノ利益ガ六千圓未満ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十二條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十三條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本法ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 臨時利得税ノ税率ハ利得金額ノ賦課ス
百分ノ十トス
ハ左ノ税率ニ依リ之

一 法人ノ利得 利得金額百分ノ十
二 個人ノ利得 利得金額百分ノ七・五

第十五條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十六條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條 法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ利得金額ハ所得税法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ利得金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ所得ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ増加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

第十八條 稅務署長ハ毎年個人ノ利得ニ

付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ
前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 所得税法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ利得金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得税法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得税法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 利得ニ付納稅義務アル個人ハ利得金額ニ減損アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ利得金額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ利益二分ノ一以上減損セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

利得金額決定後營業繼續ニ因リ利得金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第二十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ利益ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ利得金額ヲ更訂ス

第二十五條 納稅義務者第二十二條ノ決

定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得税ヲ徵收ス
個人ノ利得ニ付テハ臨時利得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ以テサズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得税ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日
第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日
第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日
第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日

第二十七條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得税ヲ逃脱シタル者ハ其ノ逃脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ個人ノ利得ニ付臨時利得税ヲ逃脱シタル者ノ利得金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第二十八條 臨時利得税ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 本法ヲ犯シタル者ハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十

八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 所得税法第五十七條、第五十八條、第七十條及第七十二條乃至第七十三條ノ二ノ規定ハ臨時利得税ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 大正九年法律第十二號第二條及第三條ノ規定ハ臨時利得税ニ付之ヲ準用ス

臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得税ヲ課セズ

第三十二條 大正十三年法律第六號ニ依リ所得税及營業收益税ヲ免除セラルル所得及純益ニ付テハ本法ヲ適用セズ

第三十三條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得税ノ附加税ヲ課スルコトヲ得ズ

附則
本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依リ臨時利得税ノ賦課ハ法人ニ付テハ昭和十二年十二月三十一日ヲ含ム事業年度分限リ、個人ニ付テハ昭和十二年分限リトス

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六 臨時利得税

○議長(公野近衛文磨君) 是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス、高橋大蔵大臣

(國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル)

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリ
マシタ日本銀行納付金法中改正法律案ニ付
キ説明ヲ致シマス、現行ノ日本銀行納付金
法ニ依リマスレバ、日本銀行ニ對シテ所得
税及營業收益税ヲ課スルニ當リマシテハ、
右納付金ハ之ヲ同行ノ損金トシテ取扱フコ
トニナツテ居ルノデアリマスルガ、今回提案
イタシマシタル臨時利得税法ニ依ル課税ニ
付キマシテモ、右ト同様ノ取扱ヲナス必要
ガアリマスノデ、之ガ爲ニ本改正案ヲ提出
イタシタ次第デアリマス、又日程第五、臨
時利得税法案ニ付テ大要ヲ説明イタシマ
ス、本税制定ノ趣旨ハ既ニ申述ベマシタ如
ク、我國財政經濟ノ現狀ニ鑑ミマシテ、時
局ノ好影響ヲ受ケテ、活況ヲ呈シテ居ル産
業ニ對シ、臨時新稅ヲ設ケ、増加セル利益
ノ一部ヲ納付セシムルコトヲ適當ト認メタ
次第デアリマス、本法案ノ大體ノ骨子ヲ述
ベマスレバ、本税ハ其趣旨ヨリシテ、課税
ノ範圍ヲ營業ニ限ルコトニ致シ、大體營利
法人ノ利益ト、個人ノ營業ノ利益ニ對シテ
課税スルノデアリマシテ、是等ノ利益ガ昭
和六年以前二年間ノ平均ノ利益ヲ超過スル
場合ニ於キマシテ、其超過額ニ對シテ百分
ノ十ノ稅率ヲ以テ賦課スルコトニ致シタノ
デアリマス、尙ホ經濟界ノ情況、營業者ノ
實體等ニ鑑ミマシテ、昭和五年、六年當時
ノ利益ガ少キ場合ニハ、本税ニ付テハ資本
金額ノ年七分ニ相當スル金額ヲ、又個人ニ
付テハ三千圓ヲ當時ノ平均利益ト見テ課税
スベキ超過額ヲ算出スルコトニ致シマシ

タ、又法人個人トモ超過額ヨリ年額二千圓
ヲ控除シテ、其殘額ニ課税スルコトニ致シ、
且ツ個人ニ付テハ其年ノ利益六千圓未滿ノ
場合ニハ課税セザルコト等ノ規定ヲ設ケマ
シテ、本税施行ノ圓滑ヲ圖リマシタ次第デ
アリマス、本税ハ當分ノ中施行スル見込デ
アリマシテ、其歳入ハ昭和十年度ニ於テ、
三千三十餘萬圓ノ豫定デアリマス、以上ハ
政府提出ニ係カル臨時利得税法案ノ大體ノ
説明デアリマスガ、衆議院ニ於キマシテハ
之ニ對シマシテ、次ニ述ブル諸點ニ付キ修
正ヲ加ヘタノデアリマス、衆議院ノ修正ノ
第一點ハ、平均利益算出ノ期限ガ昭和六年
以前二年トナツテ居リマシタノヲ、昭和六年
以前三年ト致シマシタ、修正ノ第二點ハ、
個人ノ稅率百分ノ十ヲ百分ノ七・五ト致シ、
修正ノ第三點ハ、法人ノ減資或ハ増資ニ從
ヒマシテ、特別ノ規定ヲ新ニ挿入イタシマ
シタ、修正ノ第四點ハ、本法施行ノ期間ニ關
スル規定ヲ新ニ設ケタノデアリマス、衆議
院ノ原案ニ對スル修正ニ付キマシテハ、政
府ハ同意致シテ居ラナイノデアリマス、以
上本法案ニ付キ、政府ノ原案並ニ衆議院ニ
於ケル修正ニ關シ大體ノ説明ヲ致シマシタ
ガ、尙ホ其詳細ニ付キマシテハ、適當ノ機
會ニ於テ説明イタシタイト存ジマス、右兩
案何卒御審議ノ上、速ニ御協賛アラムコト
ヲ望ミマス

○議長(公爵近衛文麿君) 質疑ノ通告ガゴ

ザイマス、橋本辰二郎君

(橋本辰二郎君演壇ニ登ル)

○橋本辰二郎君 私ハ只今上程セラレタル
二案ノ中、臨時利得税ニ關シマシテ先ヅ總
理大臣ノ信念ヲ伺ヒ、而シテ後主管當局タ
ル大蔵大臣ニ向テ質疑ヲ致シタイト思ッ

ノデアリマス、總理大臣ハ今日ハ御差支デ
御出席ガナイト云フコトデアリマスルノ
デ、直ニ大蔵大臣ニ御尋ヲ致シタイト思ヒ
マス、高橋大蔵大臣ハ増税ハ過去ニ於ケル
不景氣ノドシ底ヲ脱出イタシマシテ、折角
立直リ掛ケテ居ル所ノ我生產業ノ芽ヲ摘ム
ヤウナモノデアツテ、増税ハ即チ產業ノ進展
ヲ阻止スルモノデアアル、ソレ故ニ十年度ハ
増税計畫ヲ立ツルノ時期デナイト云フコト
ヲ、機會ノアル毎ニ幾度モ繰返サレタノデ
アツタノデアリマス、是ニハ私等モ全然御同
感デアツタノデアリマスルガ、御承知ノ通り
我が產業界ナルモノハ、多年ノ間ノ非常ナ
ル不況ヲ漸クニ蟬脱イタシマシテ、其創痍ハマ
ダ癒ヤス程度ニハ達シテ居リマセヌガ、漸次
好轉ヲ致シマシテ、將ニ產業ノ發展ニ依リマ
シテ富ノ蓄積ニ進マムトスル所ノ中途ニア
ルノデアリマス、然ルニ本税ハ此富ノ造成
ノ中途ニアル所ノモノニ對シテ稅ヲカケル
ノデアリマシテ、高橋氏ノ言ハル所ノ所謂
芽ヲ摘ムノニ相當スルモノデアルト私ハ信
ズルノデアリマス、高橋大蔵大臣ハ左様ニ
御考ニナラナイノデアリマセウカ、御見解
ヲ承リタイモノト思ヒマス、又高橋氏ハ昭
和六年末ニ、犬養內閣ニ大蔵大臣トシテ御
入閣ニナリマスルヤ否ヤ、直ニ金ノ輸出ヲ
禁止セラレマシテ金本位ヲ停止シ、爲替相
場ヲ自然ノ成行ニ放任シテ一切ノ人爲策ヲ
避ケマシテ、併セテ時局ノ必要ニ應ジテ國
家ノ歳出ヲ思切ツテ膨脹サセタノデアリマ
シタ、而シテ八億以上ニモ上ボル赤字公債
迄モ氣前好ク發行セラレマシテ、國費ヲ辨
ズルト同時ニ、又大ニ我が經濟界ノ振興ヲ
促進セラレタノデアリマス、由テ以テ我が
產業ハ非常ニ立直リ、國民所得モ増進スル

結果ニ赴イタノデアリマス、此高橋氏ノ經
綸ノ見事ニ的中イタシマシテ、我が產業界
ガ順次時ヲ逐フテ回復イタシマシテ、國民
ハ茲ニ深く高橋氏ノ財政政策ヲ謳歌シタノ
デアツタノデアリマス、然ルニ高橋氏ハ自ラ
國民ヲ善導セラレマシテ、將ニ麗シキ果實
ヲ結ビ目的ヲ達セムトスル所ノ此中途ニ於
キマシテ、俄然トシテ豹變セラレマシテ、茲
ニ臨時利得稅ヲ提案セラレタコト云フコトハ、
九叙ノ功ヲ一簣ニ虧クト云フヨリモ、寧ロ
自ラ播イタル種子ノ稔ルノヲ待タズ、蓄
中ニ摘取ルヤウナモノデアツテ、全ク自家
撞著ト言ハナケレバナリマセヌ、若シ激シ
キ言葉ヲ以テ之ヲ評シマシタナラバ、所謂
自己叛逆デアリマス、加之増税ハ不可ナリ
トセラレマシタル所ノ曩ノ聲明ヲ裏切ルモ
ノデアルト、私ハ確ク信ズルモノデアリマ
ス、敢テ大蔵大臣ノ御明答ヲ第一ニ伺ヒタ
イノデアリマス、次ニ政府ハ本案ヲ臨時利
得稅ト稱シテ居ラレマシテ、單ニ當分トカ
云フコトヲ言ハレテ居リマスルガ、所謂一
時的ノ課税ノ如クニ假裝セラレマシテ、若
モ其實蹟ガ良好ナル場合ニ於キマシテハ、
或ハ巧妙ナル文句ヲ擲リ出シマシテ臨時ノ
文字ニ代ヘ、以テ之ヲ恆久化セムトスルノ
底意ヲ有スルデアリマカラウカト云フ疑ガ濃
厚デアアルノデアリマス、ソレハ本案ノ改廢
ニ關シマスル所ノ明言ヲ、努メテ避ケテ居
ラレルノニ徴シテ明デアルト考ヘマス、尤
モ一般的稅制整理ガ出來レバ本税ハ自然廢
止スルモノデアルト云フ聲明セラレタル
コトアルヤニ仄聞ハ致シマスルガ、稅制ノ
整理ト云フコトハ、財政ノ見透シガ付カナ
ラズニハ行政ノ整理ガ又伴ハナケレバナ

リマセヌ、財政、行政ノ根本的整理ト云フモノハ、歴代ノ内閣ガ斷行セムト欲シテ幾多手ヲ焼イテ居ル所ノモノデアリマス、ナカ／＼一朝一夕ニ是ハ爲シ遂ゲ得ラレルモノデアリマセヌ、況ヤ左程強力デモナイ所ノ現内閣ガ之ヲ爲シ遂ゲムト試ミルコトハ、私ハ其勇氣ト熱意ニハ敬意ヲ拂ヒマスルガ、其實現ハ先ヅ木ニ縁ツテ魚ヲ求ムルヤウナモノデアルト見ナケレバナリマセヌ、故ニ本法廢止ノ時期ト云フモノハ先ヅ不明ナリト見テ差支ナイト思ヒマス、若シ政府ニシテ本稅ヲ長ク施行セムト欲スルノ意思ガアリマスルナラバ尙更デアリマスルガ、然ラザルニモセヨ平年度所得ノ基準ヲ、不況ノドン底デアッタ所ノ昭和五年六年ニ置イタト云フコトハ如何ニシテモ宜シクナイデアリマス、此基準ナルモノハ長イ程ガ宜シイデアリマス、此點ニ於テ衆議院ノ修正ハ政府案ニ優ツテ居ルデアリマス、全體世界經濟界ノ景氣ト云フモノハ、十年毎ニ一轉回ヲ爲スト云フコトハ、是ハ長キ經驗ニ基イテ所ノ學說デアリ、又原則デアアルデアリマス、又十年毎ニ一回轉ヲ爲ス所ノ景氣ノ圓周率、即チ英語ノ「サークル」ト云フモノハ、其圓轉毎ニ圓形ヲ擴大ナラシムルモノデアリマス、是ハ言フ迄モナク世界ノ富ノ量ガ年々歳々増加スルガ故ニ、當然ノ歸結デアアルデアリマス、即チ茲ニ前ノ週期ト後ノ週期トノ間ニ大ナル差ガ生ズルデアリマス、而モ此「サークル」ノ差ハ我國ノ如キ若キ新進國ニ於テ最モ大ナルモノガアルデアリマス、サウシテ此差額ト云フモノハ、必シモ人ノ力ノミニ依ツテ生ジタモノデハナイデアリマス、ソコデ其差額ノ一部ヲ冥加金トシテ國家ニ提供セシム

ルト云フコトハ何等差支ナイノデアリマス、是ガ即チ稅制上本格的ノヤリ方デアアルデアリマス、政府ハ昭和五年六年ノ如キ不況ノドン底ニ基準ヲ置キ、世間ヨリ幾多ノ非難攻撃ヲ受クルガ如キ低劣ナル財政策ヲ拋棄シテ、宜シク本格的ノ方法ヲ執ルベキデハアルマイカト思ヒマス、然ラザレバ臨時稅ナルモノハ臨時ノ費途ニ充當スルノ立前ヲ以チマシテ、本稅ハ天災地方ノ匡救復舊ノ終結ト同時ニ廢棄スベキモノデアリマス、強ヒテ本稅ノ基準ヲ昭和五年六年度ニ置クコトヲ固執セラルルナラバ、宜シク政府ハ其政府ノ最大理由トセル所ノ、時局ノ好影響ヲ受ケテ活況ヲ呈シタル所ノ昭和七年度ヨリ課稅シナケレバ、理窟ガ合ハナイデアリマス、サウシテ茲ニ變勇ヲ揮ツテ、法律ハ既往ニ遡ラズト云フ原則ヲ打破シテ、七年度ニ遡及シテ課稅スルノガ相當デナケレバナリマセヌ、何トナレバ政府ガ提案ノ理由トセル所ノ時局ノ好影響ナルモノハ、今後ニノミ生ズルベキモノデハナクシテ、確ニ是ハ昭和七年度ヨリ芽ヲ吹イテ居ルデアリマス、カラシテ、必ズヤ此政府ノ説明通りトシマシタナラバ、昭和七年度ヨリカケルノガ當然ト私ハ信ズルデアリマス、政府ノ所見果シテ如何デアリマスルカ、是ガ第二點デアリマス、次ニ本稅ハ臨時利得稅ト云フノデアリマスルガ、臨時ト云フ文字ノ意味ハ一時限り、又ハ一時ノ間ニ合セト云フコトデアリマス、例ヘバ何日ニハ何處ソコニ緣日ガアル、又花見ガアルト云フ時ニ、能ク臨時電車等ヲ出スノ廣告ガ見ラレルノデアリマス、是ハ單ニ其緣日又ハ花見ノ時ニ限ツテ發スルノデアリマシテ、平日ニ出スモノデアリマセヌ、同ジ理窟デ臨時利得稅

ト云フ以上ハ、或ル特定ノ臨時應急ノ費途ニ充當スル爲ニ一時的ニ課稅スルモノデアツテ、臨時ノ費用ヲ要セスコトニナリマシタナラバ、直ニ之ヲ廢止スルト云フコトガ、是ガ常識觀デアリマス、故ニ本稅ノ場合ニ於キマシテモ亦、天災ニ依ツテ損害ヲ被ツタ所ノ地方ノ匡救事業ガ一段落ヲ告ゲルト同時ニ、直ニ之ヲ廢止スルガ當然デナケレバナリマス、然ルニ政府ハ臨時ト稱シテ置キナガラ、本稅廢止ノ時期ヲ明言セザルノミナラズ、之ヲ特殊ノ費途ニ充當セズシテ、而モ之ヲ永久化シ、一般歳入ニ繰入レルト云フコトハ、假リニ財政上之方爲シ得ザルモノデナイニモセヨ、常識的ニハ如何ニモ平仄ノ合ハヌ所ノヤリ方デアルト思ハレマス、政府ハ全體臨時ト云フ意味ヲ如何ニ考ヘラレテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイト思ヒマス、次ニ本利得稅ニ關シマシテ、世間ニ於テ又ハ議會ニ於キマシテ、戰時利得稅ト比較シテ論ズル者ガアルヤウニ聞イテ居リマス、政府ハ果シテ戰時利得稅ニ擬シテ本案ヲ制定セラレタノデアリマセウカ、成程本稅ハ戰時利得稅ニ倣ツテ計畫ヲ立テラレタモノト見ルノモ亦一種ノ見方デアリマス、何トナレバ戰時利得稅ナルモノハ、一般國民ノ納稅資格アル者ニ普ク負擔サセルモノデハナクシテ、特ニ其戰爭ノ爲ニ特殊ノ利益ヲ得タル者ノミニ課スルノ稅デアリマス、今本稅モ臨時利得稅トハ僅バカリ其内容ヲ異ニ致シテ居ルノミデアリマシテ、大體ニ於キマシテハ同一デアリマス、即チ普ク一般國民ニ課スルノデアリマセズシテ、特ニ軍需「インフレ」ヤ若クハ爲替ノ下落ヤ、貿易ノ發展ノ潮流ニ乗ジテ利得ヲ獲得シタル者ニ限リテ課稅スルモノ

デアリマス、全然戰時利得稅ト其理由並ニ根據ヲ等シクスルモノト言ツテ可ナリト思フノデアリマス、今ハ非常時ト呼ブ聲ガ高イノデアリマス、併ナガラ非常時ト言ヒマシテモ只今ハ戰時デハアリマセヌ、非常時ト云フ意味ニ付キマシテハ、各人各異ナリタル意見ヲ持ツテ居ルト思ヒマス、何レニモセヨ、少クトモ今ハ戰時デハナイノデアリマス、然ルニ戰時利得稅ト等シキ觀念ノ下ニ本案ヲ提出セラレタリトシマシタナラバ、是ハ實ニ不當ナリト言ハナケレバナリマセヌ、併ナガラ大藏大臣ハ定メテ言ハルルデアリマセウ、戰時利得稅トハ全然無關係デアルト、然ラバ宜シク戰時利得稅ト本稅ト異ナル所ノ理由ト根據トヲ詳細ニ示サレムコトヲ望ムノデアリマス、次ニ本稅ハ爲替下落ヤ軍需「インフレ」ノ御蔭ヲ被ツテ、特ニ利益ヲ得タル者ノミニ課稅スルト云フ立前デアリトシマシタナラバ、今後モ特ニ儲ケタル者ニ對シマシテハ、其時々特別稅ヲ課スルト云フ一種ノ原則、前例ヲ作ルノデハアリマス、大藏大臣ノ御考ハ如何デアリマスカ、果シテ左様ナ例ヲ作ルモノト致シマシタナラバ、例ヘバ金貨ヲ引揚ゲタモノヤラ、良好ナル鑛脈ヲ發見シタモノヤラ、相場場儲ケタモノヤラ、不毛地ガ俄然トシテ價值ヲ高メタルモノニ對シマシテモ、其時々課稅セナケレバナリマス、其結果ト云フモノハ延イテハ所有權一部ノ侵害トナリマス、他日恐レベキ財産沒收ノ俑ヲ作り、國民不安ヲ發生セシムルノ虞ガ生ジナイカラ非常ニ憂フルノデアリマス、次ハ本稅ハ負擔ノ均衡ヲ破リ、不公平ナル課稅ヲ強要スルノ憾ガアルノデアリマス、元來事業ニハ色ミナ種類ガアリマス、

世間ニハ不景氣ノ影響ノ如キモノハ馬耳東風ト見送りマシテ、何等ノ痛痒モ感ゼザル所ノ所謂平和事業ト云フモノガアリマス、此平和事業ナルモノハ、平時ニ於キマシテハ突飛ナル收益ハ望ミ難イモノデアリマス、而シテ毎年平均シタル所ノ利益ガ確保セラレノデアリマス、其中ニハ歐洲戰亂以來非常ナル巨利ヲ博シタル者モ往々アルノデアリマス、之ニ反シテ一方ニハ激甚ナル競争ト、經營難ニ惱ム所ノ生産事業ガアリマス、而シテ生産事業ハ悲境ニ喘グ時代ニ於キマシテモ、平和事業ナルモノハ平坦トシテ氣樂ニ相當ノ利潤ヲ收得シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク不景氣ハ何處ヲ吹クカト晏如タル態度デ居ル者モアリマス、反對ニ數箇年連續ノ欠損ニ苦シミ、甚シキハ十數年間悲境ノ底ニ沈淪イタシマシテ、減資ニ次グ減資ヲ以テシ、辛ウジテ會社ナリ、事業ノ内容ノ整理ヲ遂ゲ、サウシテ近年ノ好景氣ニ惠マレマシテ、漸ク更生ノ曙光ニ接シタ者モ多クアルノデアリマス、即チ此種ノ生産業者ハ、最モ其苦シカッタ所ノ昭和五年、六年中ニ比ベマスレバ、今日ニ於キマシテハ其利益率ハ著シク増加シテ居ルノデアリマス、併ナガラ此利益ト云フモノハ是ハ舉ゲテ過去ノ欠損ノ補填ヤ、又ハ償却ノ不足ニ充テルトカ、若クハ他日ノ反動ニ備ヘムガ爲ニ専ラ基礎ノ鞏固ニ充テナケレバナライノデアリマス、然ルニ其償却補填ヤ、基礎鞏固ニ振向ケムトスル所ノ利益金ニ對シマシテ、苛重ナル負擔ヲ強要スルノガ即チ本稅デアリマス、之ニ反シマシテ連年一割乃至三割近クノ利益ヲ引續キ收得セル所ノ平和事業ハ、今日ト雖モ尙ホ昭和五年、六年度ト其利益率ニハ大ナル逕庭

ガナイモノガ多クアリマス、故ニ是等平和事業ノ經營者ハ、本稅ヲ負擔スルノ義務ヲ免除セラルルコトニナリマス、又我國ノ大事業會社中ニハ、創立ガ最モ古ク且ツ其積立金ノ如キモノハ、殆ド資本金ト同額ノ積立金ヲ持チ、又償却モ十分ニナシテ居リマシテ、基礎モ非常ニ鞏固デアッテ、每期四割以上ノ利益ヲ擧ゲテ居ル所ノ會社モアルノデアリマス、本稅ハ是等優良ナル會社ニハ殆ド課稅スルコトガ出來ナイノデアリマス、然ルニ先程モ述べマシタ通り、辛ウジテ過去ノ苦境ヲ逸脱シテ、茲ニ時勢ノ順風ニ乗ジテ漸クニ更生セル所ノ生産業者ハ、總テ本稅ノ苛酷ナル負擔ヲ受ケナケレバナライノデアリマス、又長キ月日ニ互リマシテ多額ノ利益ヲ連續ニ收獲セル所ノ金融業者、保險業者等モ亦大資本ヲ擁スル古キ大會社ト同ジク、本稅ノ負擔ヲ免除セラルルカ、若クハ假令本稅ヲ負擔スルニ致シマシテモ、其程度ハ誠ニ輕微デアリマス、斯ノ如キ不權衡ナル稅法ト云フモノハ、近來他ニ類例ガナイト私ハ思ヒマス、即チ本稅ハ負擔ノ均衡ヲ失セル所ノ不公平極マル稅法ト云フモノハ、差支ナイト思ヒマス、殊ニ近年收稅吏ノ徵稅技術ナルモノガ非常ニ進歩イタシマシテ、或人ハ收稅吏ハ個人ノ懷中ノ金ノ在高マデモ知テ居ルト云フ位デアリマス、併ナガラ是等ノ技術ノ進歩シタル所ノ收稅吏ト雖モ、大會社ニハ其力ガナカク、及バナインデアリマス、小サイ資本家ニ對シマシテハ重箱ノ隅ヲホデクルガヤウニ、所謂爬羅剔抉至ラザルナキト云フ手段ヲ執リマスガ、大資本家殊ニ各地ニ支店、工場等ヲ有スル

所ノ大キナ會社ニ對シマシテハ、是等ノ收稅吏モ調査ノ行届カザル點ガ多クアリマス、即チ此處ニモ資本ノ大小ニ依リマシテ本稅ノ負擔ニ不公平ヲ來スノ虞ガアルノデアリマス、租稅ハ擔稅力アル者ニカケルト同時ニ、其負擔ノ公平、均衡ガ最モ必要條件デアラネバナリマセヌ、然ルニ本稅ノ如ク其均衡ヲ誤ルモノハ他ニ殆ド例ガナイノデアリマス、政府ハ如何ニシテ斯ノ如キ負擔ノ不均衡、課稅ノ不公平ヲ是正セムトセラルルカ、其所見ヲ承リタイト思ヒマス

〔國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(高橋是清君) 只今橋本君ヨリ數箇條ニ互ッテ御質疑ガアリマシテ、大分色色御意見モ加ハッテ居ルノデアリマシテ、或ハ御質問ノ要點ヲ捉ヘ得ナカッタカモ知レマセヌ、一應御答スベキ點ト考ヘマシタ所ニ付テ御答ヲ致シマス、第一ニ最初ニ御意見ハ、今日ハマダ課稅スベキ時期デナイ、漸ク金輸出ヲ禁ジ、赤字公債ヲ發行シテ、僅ニ今日産業界ノ恢復ヲ見ムトシテ居ル際ニ、之ニ向ッテ課稅スルト云フコトハ其芽ノ出タ所ヲ摘ムヤウナモノデアアル、嘗テ又大藏大臣ハ、課稅ハ今日其時期ニ非ズト、ツイ此間マデ言明シテ居タデヤナイカ、今回此臨時利得稅法案ヲ提出スルト云フコトハ、全ク裏ノ聲明ヲ裏切ルモノデアアル、斯ウ云フ……裏切ルモノデアアルト斯ウ御認メニナッテノ御諒ダカラシテ、詰リ之ヲ裏切ル譯ニナリヤセヌカト云フ御尋ト私ハ考ヘル、是ハ失禮ナガラ、此私ノ先年來増稅尙ホ時期ニ非ズト申シタコトハ、御承知ノ通り是ハ赤字公債ニ代ヘルニ漸次増稅ノ手段ニ依ルト云フノデアッテ、一般的ノ増稅ノコトヲ指シテ言フタノデアリマス、故ニ此提出シ

マシタル臨時利得稅トハ全ク別ノ問題デア、故ニ裏ノ聲明ヲ裏切ルトハ私ハ考ヘテ居ラスノデアリマス、又臨時ト云フケレドモ是ハ恆久的ノ性質ニナル、恆久的の稅法ニナルト云フ御懸念ガ深イヤウデアリマスケレドモ、臨時ハ何處マデモ臨時デアリマシテ、決シテ政府ハ之ヲ恆久ノ稅法トスル考ハ今日持ッテ居ラスノデアリマス、第四ノ御尋ダト……アトハモウ第何ト云フ數ヲ御示シニナリマセヌデシタカラ順序ハ分リマセヌガ、第四番目ノ御尋トシテ、此基準ヲ昭和五年、六年度トシタノガ宜シクナイ、斯ウ云フコトデアアル、臨時利得稅ハ、度々衆議院ニ於テモ申シマシタル通り、時局ノ好影響ヲ受ケマシテ、ソレニ依ッテ増加シタル利益ノ一部分ヲ納稅セシメルト云フ趣旨デアリマスノデス、故ニ其利益計算ノ基準トスル……基準タルベキ期間ハ、經濟界ニ今日ノ如キ、現在ノ如キ情勢ノ生ジマスル其以前ニ基準ヲ取ルコトヲ必要トスルノデア、又此負擔ハ出來得ルダケ此經濟界ノ好轉シテ來マシタ其直近ノ、其時ノ直キ前ノモノデナケレバナライノデアリマス、サウシマセヌト云フト、稅務ノ實際上ニ於キマシテ種々ノ困難ガ起ルノデアリマス、而シテ我國ノ經濟界ノ漸次恢復シテ參リマシタノハ昭和七年以降ノコトデアリマス、其以來此時局ニ對スル諸種ノ方策ノ實施等ニ併セマシテ、此一部ノ産業界ハ今日ノ好況ヲ呈シテ來タノデアリマスルカラ、昭和五年、六年ヲ以テ基準ト致スコトヲ至當ナリト認メタノデアリマス、併シ當時ノ事業界ハ……當時ト申シマスノハ即チ七年以前ハ概シテ好況デナカッタノデアリマスルカラ、其點ヲ考慮イタシマシテ、當時ノ實蹟ヲ其儘基準

トシテ用キタノデハナイノデアリマス、即チ法人ニ付キマシテハ色ミノ積立金等ヲ含メタ其資本金額ノ、年七分ニ相當スル利益ノアツタモノト見ルコトニ致シマシテ、又個人ニ付キマシテハ三千圓ノ利益ガアツタモノト見ルト云フコトニ致シマシテ、即チ七分ト云フコトハ相當ナリト考ヘマシテ、五年六年ヲ基準ト致シマシテモ實際ニ於テ當時業績ノ悪カッタモノハ皆是ハ七分ノ適用ヲ受ケルコトナッテ居ルノデアリマス、其爲ニ苛酷ノ結果トハナラヌト考ヘテ居リマス、内容ガ即チ均衡ノ原則ニ反シテ居ルト云フ御意見デアリマスガ、是ハ負擔公平ノ點ニ付キマシテハ、法案ノ内容ニ於キマシテ色ミ工夫ヲ凝シテ居ルノデアリマスルカラシテ、且ツ其事柄ハ稍、技術的ニ互リマスルカラシテ、是ハ適當ノ機會ニ於テ詳細ノ説明ヲ致ス方ガ宜カラウト考ヘマス、又戰時利得稅ニ依ツタノカドウカト云フ御尋デアリマスルガ、同一デハナイノデアリマス、戰時利得稅ヲ施行イタシマシタル時トハ、其當時トハ今日ハ經濟ノ事情ガ大ニ異ニテ居リマス、故ニ戰時利得稅ト此法案ト同一ニ論ズル譯ニハ行キマセヌ、是モ詳細委員會ニ於テ説明ヲ致スコトニ致シタイト考ヘマス、能ク聽取レマセヌデシタガ、中ニ昭和七年ニ遡ッテ課稅ヲ施行スルノカト云フヤウナコトモアツタヤウデスガ、此稅法ヲ過去數年ニ遡ッテ實行スルト云フコトハ穩當デアリマセヌカラシテ、若シサウ云フ御尋デアリマシタラ、政府ハサウ云フ意思ハナイト御答ヲ致シマス、又本稅ハ優良ナル會社ニ對シテ緩ニシテ、弱體ノ會社ニ對シテハ苛酷デアアル、斯ウ云フ御斷定ノ下ニ御質疑ニナツタノデアリマ

スルガ、是ハ今モ申ス通り此時局ノ好影響ヲ受ケテ、サウシテ營業ノ利益ノ増加シタルモノニ對シテ、其増加シタル利益ニ對シテ課稅スルノデアリマシテ、増加スル其利益ガナイモノニ對シテハ、是ハ優良會社タルト弱體會社タルト問ハズ課稅ヲシナイコトニナッテ居リマス、即チ昭和五年、六年、現在トノ利益率ノ同一ナル會社ニ對シテハ、時局ニ因リ増加セル利益ナキヲ以テ本稅ノ課稅ハ受ケナイコトニナッテ居リマス、又力ノ弱イ會社ニ苛酷デナイト云フノハ、矢張り是ガ昭和五年、六年ガ缺損デアアル、或ハ又利益率ガ少イト云フ會社ニ對シマシテハ、資本金額ニ年七分ヲ乗ジタルモノヲ以テ平均利益ト看做スノデアリマス、ソコデサウ云フ風ニシテ負擔緩和ノ方法ヲ講ジテアルノデアリマスルカラシテ、敢テ苛酷ナリト云フ心配ハナカラウト思ヒマス、又本稅ノ創設ハ産業資本ヲ壓迫シテ、金融資本ヲ擁護スルコトニナルノデヤナイカト云フヤウナ御問デアリマスルガ、本稅ハ生産業タルト金融業タルト問ハズ、即チ産業資本タルト金融資本タルト問ハズ、苟モ増加セル利益アレバ何レモ課稅スルモノデアリマシテ、産業資本ニ嚴ニシテ金融資本ニ寛ナリトノ御非難ハ當ラナイモノト考ヘマス、以上御答ヲ致シマス

(橋本辰二郎君演壇ニ登ル)

○橋本辰二郎君 只今大藏大臣ノ御答辯ヲ承リマシタ、幸ニ平生ノ低聲デナクシテ割合ニ聲ガ高クシテ、私モ半分位ハ聽取ルコトヲ得タノデス、併ナガラ御説明ハ遺憾ナガラ私ヲ満足セシムルモノデアリマセヌ、殊ニ過去ニ於ケル所ノ聲明ト此臨時利得稅トハ異ナルト云フガ如キハ、是ハ強辯モ甚

シキモノデアリマス、又課稅ハ好景氣ノ直近ノモノニ付テカケナケレバナラヌト云フノハ、是ハ一種ノ見方デアリマシテ、意見ノ相違ト見テ宜カラウト思ヒマス、而シテ戰時利得稅ト其理由、根據ヲ等シクセルト云フ私ノ論難ニ對シマシテノ説明ハ、殆ド成ッテ居マセヌ、又政府ハ時局ノ好影響ヲ受ケタモノノ利益ノ一部ヲ、國庫ニ納メシムルト云フ立前デアアルナラバ、七年度ニ遡及シテ課稅スルノガ是ハ理窟デアルト云フコトヲ私ハ言ツタノデアリマス、カケナケレバナラスト言ツタ譯デハナイ、政府ノ説明通りトスレバサウ云フ理窟ニ歸スルト云フコトヲ私ハ言ツタノデアリマス、元來前大藏大臣藤井氏ハ、公債ノ消化力ハ國庫ノ前途ニ重大ナル關係ヲ及ボスト云フコトヲ焦慮セラレマシテ、七億五千萬圓以上ノ消化ハ到底不可能ナリト立前ノ下ニ於キマシテ、歲入ノ一部補填ノ爲ニ本稅ヲ立案セラレタモノト思フノデアリマス、果シテサウデアレバ是ハ一應背ケルノデアリマス、併ナガラ公債ノ消化力ハ、綽々トシテ餘裕アリトスル所ノ高橋大藏大臣ノ處置ト致シマシテハ、誠ニ其意ヲ得ザル所ノモノデアリマス、高橋大藏大臣ハ何故ニ三十二億圓ト云フ此總豫算ノ千分ノ十五ニモ過ギザル所ノ微々タル所ノ新稅ヲ創設セラレマシテ、國民ノ非難ヲ受クルコトヲ甘受セラルト云フコトハ、私ノ實ニ怪訝ニ堪ヘザル所デアリマス、併ナガラ思ヒマスルニ高橋氏ノ御入閣ニナリマシタノハ、豫算ハ既ニ確定後デアツテ、今更手ノ下シヤウモナイ、已ムヲ得ズ前任者ノ計畫ヲ踏襲セラレタモノト思ヒマスル、デ高橋氏カラ見マスレバ、自分ノ素志ニ非ザル所ノ法案デアアルケレドモ、

已ムヲ得ズ今日提案者トナラナケレバナラスト云フコトニナツタト云フ點ヲ私ハ察シマスレバ、實ニ御同情ニ堪ヘザル點モ多々アルノデアリマス、由來藤井前大藏大臣ハ健全財政論者デアリマシテ、公債ノ消化力ト其漸減トニ専ラ考慮ヲ費サレマシテ、赤字公債ノ一部ノ補填ト致シマシテ本稅ヲ立案セラレタルモノニ相違ナイノデアリマス、然ルニ之ヲ提案セラレタル所ノ高橋大藏大臣ハ、公債ノ消化力ハ尙ホ綽々ト餘裕アリ、増稅ハ其時期ニ非ズ、即チ實ヲ結ブ前ニ芽ヲ摘ムヤウナモノデアッデ、產業界ニ非常ナ惡影響ヲ及ボスモノデアルト云フ論者デアアルノデアリマス、即チ立案者トハ全然意見ヲ異ニセラレテ居ラレルノデアリマス、ソレ故ニ其説明ノ不徹底ニシテ曖昧ナルモ亦當然ト思フノデアリマス、ソコデ此稅ハ恰モ木ニ竹ヲ接イダヤウナモノデアリマス、此處ニモ大ナル矛盾ト無理ガ存シテ居ルノデアリマス、要スルニ大藏大臣ノ御説明ハ、強辯ニ非ザレバ一時ノ通辭ニ過ギナイノデアリマス、決シテ國民ヲ納得セシムルモノデアリマセヌ、第一本稅ハ時機ヲ得テ居ラナイ、第二、財政上ノ見地ヲ異ニスル者ガ一ハ立案者トナリ一ハ提案者トナッテ居リマス、第三、臨時稅ト稱シナガラ政府者ハ臨時ト云フ文字ノ意味スラ知ラナイモノデアリマス、而シテ此期限ヲ明言セズシテハ好クバ之ヲ恆久稅タラシメヤウトスル、狡猾ナルコトハ見エ透イテ居ルノデアリマス、第四、案ノ組立ガ戰時利得稅ニ髣髴タルモノアルニモ拘ラズ、言葉ヲ曖昧ニシテ説明スルコトガ出來マセヌ、第五、課稅ノ基準ガ當ヲ得ザルガ爲ニ、課稅ノ原則タル所ノ負擔ノ公平ト均衡

トヲ缺イテ居リマス、本案ハ是ハ遺リ方次第ニ依テハ決シテ惡税デハナイ、併シナガラ玆ニ提案セラレタル此臨時利得税ナルモノハ、無理ニ無理ヲ重ネタル所ノ、恰モ古材木ヲ集メタル組建小屋ノヤウナモノデアッテ、而モ注文主ト居住者ガ違テ居ルト云フヤウナ、近來稀ナル珍シイ税ト稱シテ宜カラウト思ヒマス、是レ以上政府ノ説明ヲ聽イタ所ガ到底國民ノ納得ハムツカシイと思ヒマス、唯新税ノ創設ナルモノハ理論ト根據ト、竝ニ其波及スル所ノ各方面ノ關係ヲ能ク能ク考慮セラレ、周到精密ナル注意ヲ拂フデナケレバ、能ク國民ヲシテ悦服セシムルコトガ出來ナイト云フコトヲ、私ハ玆ニ指摘イタシマシテ質問ヲ終リマス

○議長(公爵近衛文麿君) 森平兵衛君

(森平兵衛君演壇ニ登ル)

○森平兵衛君 會期ノ切迫シテ居リマスル時デアリマスルノデ、本員モ臨時利得税ニ對シマシテ、詳細ナル質問ヲ試ミタイト存ジテ居ッタノデアリマスルガ、既ニ私ノ質問セムトスル所ヲ前議員ノ御質問ニナッタ點モアリマスルノデ、極ク簡單ニ私ノ質問ノ要領ヲ政府ニ申上ゲ、政府モ成ルベク要領ヲ得ラレマスルヤウニ御答辯アラムコトヲ此機會ニ御願申ス次第デアリマス、本日ハ總理大臣ニモ一點御質問ヲ申上ゲタイト思フテ居ッタノデアリマスルガ、御出席ナイ爲ニ、ソレハ他ノ機會ニ讓ルコトニ致シマシテ、専ラ高橋大藏大臣ニ御尋ラ致シタイト思フノデアリマス、第一點ハ、此臨時利得税ノ制定ヲ爲スニ當ラレマシテ、政府ハ内閣審議會ト云フモノヲ此議會ニ御提案ニナルト云フコトデアリマスルニ拘ラズ、一年延期シテ此内閣審議會ニ之ヲ付議シテ、慎

重ニ考究セラレタ上デ何故御提出ナカッタカト私ハ思フノデアリマス、現内閣ニ於カセラレマシテハ、國家ノ此重要政策ニ關スル調査審議ノ機關ト致シマシテ、内閣ニ内閣審議會ノ設置ヲ計畫セラレテ居ラレマスルコトハ、誠ニ機宜ヲ得タル處置ト私ハ考ヘルノデアリマス、而シテ此重要政策ニ關スル將來ノ方針、又國防ト財政トノ調和、行政機構ノ改革等ノ大問題ハ、總テ此審議會ニ於テ慎重考究ヲ遂ゲテ善處スル御考デアルコトヲ貴族院、衆議院、兩院ノ本會議及各種ノ委員會ニ於テ、議員ノ質問ニ對シテ政府ハ機會アル毎ニ言明シテ居ラレタルノデアリマス、惟フニ是ハ單ナル私ハ責任轉嫁ノ御言葉デナクシテ、眞ニ實行ノ意思ヲ有セラルルモノト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、果シテサウ云フコトデアラナラバ、此税制ノ整理改廢、新税ノ創設ナドト云フ如キ重要案件ハ、必ズヤ此審議機關ニ諮ツテ、其慎重審議ヲ俟ッテ決定スベキガ當然デアルト考ヘルノデアリマス、蓋シ此新税ノ制度ハ國家財政上ニ重大關係ヲ有スルコトハ勿論デアリマスノミナラズ、國民負擔ノ公正均衡、竝ニ産業ノ盛衰隆替ニモ、密接不離ノ關係ヲ有スルノデアリマス、内閣審議會ハ正ニ斯カル重大國策ヲ審議スル爲ノ私ハ機關デアルト思フノデアリマス、斯ノ如キ重要問題ヲ此審議會ニ付議セズシテ、審議機關ノ必要何處ニアルカト云フコトモ議論ノ餘地ガアルノデアリマス、政府ハ或ハ豫算編成上間ニ合ハナカッタト云フヤウナ御考ト思フノデアリマスガ、併ナガラ此臨時利得税ノ金額ハ十年度ニ於キマシテモ三千三十餘萬圓、平年度ニ於テ四千百萬圓デアリマス、之ヲ一箇年延期シテ

ト假定イタシマシテモ、三千萬圓位ノ減收ニ過ギスノデアリマス、歲計金額二十二億ノ數字ニ對シマシテハ、甚ダ僅ノ金額デアル、是ダケノ増收デ國家財政ノ基礎ガ鞏固ヲ加ヘル譯デモナイト思フノデアリマス、況ヤ此新税ニハ幾多ノ缺陷ガアリ、又慎重考究スベキモノガアルト考ヘルノデアリマス、政府ニ於カレマシテ先ヅ内閣審議會ニ付議セラレナカッタ、極メテ早急ノ中ニ之ヲ制定セラレマシタ理由、竝ニ私ハ此十年度一年延期スルト云フヤウナ御意思ノナイモノカ、第一點ニ伺ヒタイト思フノデアリマス、第二點ハ、確固タル財政計畫ヲ樹立セズシテ、唯一部分ノ増税ハ甚ダ不合理ト思フノデアリマス、政府ハ何故財政整理、税制整理ト共ニ増税ヲ行ハレナカッタノデアルカ、御所見ヲ承リタイト思ヒマス、赤字公債ヲ漸減シテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトハ、刻下最モ急務トスル所デアリマス、之ガ爲ニ増税力アル方面ニ増税ヲ圖ルコトモ亦已ムヲ得ナイト思フノデアリマスルガ、併ナガラ財政ノ基礎ヲ鞏固ヲ圖ルニハ、先ヅ歲入歳出ノ各方面ニ互リマシテ、之ガ整理ヲ行フコトガ必要デアルノデアリマス、歳出ノ各要素ニ付キマシテモ整理スベキモノハ整理シ、又合理化スベキモノハ合理化シテ、歳入ノ方面ニ於テモ同様ノ整理ト合理化ガ最モ必要デアルト思フノデアリマス、殊ニ税制ニハソレノ體系ガアリマシテ、複雑ナル負擔ノ關聯ガ存スルノデアリマスルカラ、全般ノ整理改廢ヲ考慮セズシテ、單ニ一税種ノ變更又ハ創設ヲ行フト云フコトハ、直ニ國民負擔ノ公正ト均衡トアリマス、財政基礎ノ鞏固ヲ圖ル爲ニハ、

擔税力アル部分ニ増税スルト云フコトハ又已ムヲ得ナイト致シマシテモ、是ハ歳出歳入各方面ノ整理計畫ヲ立テラレマシテ、且ツ一般税制ノ整理ヲ圖ラレ、尙且ツ歳入不足ノ場合ニ於テ初メテ増税計畫ヲ立テルベキモノデアルト信ズルノデアリマス、然ラズシテ單ニ一ノ新税ヲ設ケルコトハ、負擔ノ均衡ノ關係ヲ害シ不公平ヲ來スノ半面ニ於テ、眞ニ財政ヲ鞏固ナラシムルコトモ出來ヌト云フ缺點ヲ伴フノデアリマス、政府ハ少シモ斯カル財政整理、税制整理ノ根本計畫ニ觸レズシテ、匆卒ノ間ニ於テ此新税ヲ制定セラレムトスルコトハ、果シテドウ云フ理由ニ基カレルモノデアルカ、殊ニ現政府ノ十大政綱ノ中ニモ、歲計收支ノ均衡回復ニ努メ以テ財政ノ基礎確立ノ爲最善ノ處置ヲ執ラムトスト、斯ノ如ク天下ニ聲明サレテ居ルノデアリマス、此新税ノミニ依ッテ之ヲ實現シ得タモノトモ私ハ思ハレナイノデアリマス、此點ニ對シテ大藏大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、第三ハ、高利公債ノ低利借換ハ、増税計畫ヨリ遙ニ合理的ト考ヘルノデアリマス、政府ハ之ヲ斷行セラレル御意思ハナイノデアリマスルカ御伺シタイノデアリマス、低金利政策ノ決定セル現今ニ於キマシテ、政府ハ現存セル所ノ五分利公債ヲ低利借換ヲモ爲サレズ、如何ナル理由ニ依ルモノデアリマスカ、高橋大藏大臣ノ低金利政策ハ、御承知ノ通り先ヅ第一ニ庶民ノ貯蓄ニ對スル利子ノ引下ゲニ始マリマシテ、郵便貯金ノ利子四分二厘ヲ一躍三分ニ引下ゲラレマシタ、然ルニ公債ノ利子ヲ見マスルニ、外貨債ニ於テハ六分半利附ノ公債ガマダアルノデアリマス、内債ニ於テハ五分利

公債モ亦相當ノ額ニ上ボツテ居ルノデアリ
マス、外貨債ハ、金輸出禁止ノ場合デアリ
マスルカラ、之ヲ償還スルトカ、或ハ又借
換ヘルト云フコトハ、或ハ至難ト思フノデ
アリマスルガ、内債ノ五分利ニ至リマシテ
ハ、其借換ハ自由デアデ、殊ニ期限ノ到來
セルモノガアルト聞及ビマス、國債ノ利子
ガ市中ノ金利ヨリ高率ニ廻ルト云フヤウナ
コトハ、一等國ノ決シテ名譽デハナイト私
ハ思フノデアリマス、又合理的財政政策デ
モアリ得ナイト思ヒマス、我々ノ聞ク所ニ
依リマスルト、五分利公債ヲ假リニ四分利
ニ借換ヘタルトスレバ、約四千萬圓バカリノ
利拂ガ減少スルノデアリマス、即チ國庫負
擔ノ輕減ナルノデアリマス、現ニ地方債ニ
於キマシテハ、四分ノ借換ガ盛ニ行ハレ
テ居リ、又私設會社ノ社債等ハ、四分二厘
乃至四分五厘ニ借換ヘ、又新規發行スルモ
ノモ、此位ノ利息デ行ハレテ居ルノデアリ
マス、然ルニ國債ニ於キマシテハ、何時迄
モ此五分利ト云フモノヲ其儘ニ據置クト云
フコトハ、大イニ考慮ヲ要スルモノデアリ
カト思フノデアリマス、産業開發ニ障礙ヲ
及ボスト云フヤウナ、議論ノ餘地ノアル此
新稅ヲ創設シテ、三四千萬圓ノ増收ヲ圖ル
コトヲ爲サレナガラ、五分利公債ノ低利借
換ヲ何故ナサレヌノデアアルカ、大ナル矛盾デ
アルト私ハ信ズルノデアリマス、政府ハ低
利公債ト借換ノ御意思ハナイモノデアリマ
スルカ、御尋ヲ致シマス、第四ハ、政府ハ
本法案ノ衆議院ノ修正ニ對シマシテ、前刻
高橋大藏大臣ハ不同意ノ意思ヲ言明セラレ
テ居ルノデアリマスルガ、是ハ全部御反對
デアリマスノデアリマスルカ、或ハ稅ノ國
庫ニ對スル收入ノ金額ニ於テ大ナル差違ヲ
生ジマセヌ限リ、所謂豫算上ノ關係モアリ
マスルノデ、之ガ假リニ二千萬ニナルトカ、
或ハ一千五百萬圓ニナルトカ云フコトニナ
リマスレバ、非常ナ影響ヲ及ボスモノデア
リマスルガ、其金額ニ於テ多大ナル相違サ

ヘナケレバ、多少ノ修正タケハ置イテモ宜
イト云フ御考デアアルノデアリマス、御伺
ヲスルノデアリマス、私ハ衆議院ノ修正案
ガ妥當デアアルカ、或ハ政府ノ原案ガ正シイ
モノデアアルカト云フコトハ、能ク是カラ慎
重ニ檢討シタル上デナイト言明スルコトハ出
來ヌノデアリマス、我々ミト致シマシテハ
産業ノ恢復ガ漸ク其緒ニ就イテ居リマスル
ノニ、一部ノ論者デハ矢張り此産業ニ重壓
ヲ加ヘルト云フヤウナ經濟學者モアルノデ
アリマス、又財界ニモ矢張り此稅ガ、シ
ヨツクヲ與ヘルト云フヤウナコトモ唱ヘテ
居ル論者モアリマスルカラ、此案ニ付テハ
餘程慎重ニ研究センナリマセヌガ、衆議院
ノ修正ノ中ニモ我々ミトシテハ妥當ト思フヤ
ウナ點モナキニシモアラズト思フノデアリ
マス、政府ハ此點ニ付テ徹頭徹尾御不贊成デ
モナイノデアリマス、御尋得レバ誠ニ仕合
ト思フノデアリマス、是ハ或ハ前ノ議員ノ質
問ノ中ニモアツタノデアリマス、私トハ少
シク所見ヲ異ニシテ居リマス、第五
點ハ重複ノ所モアリマス、短簡ニモウ一
點御質問ヲ申上ガタイト思フノデアリマス、
此臨時利得稅ノ創設ハ、其時機ヲ得タモノ
デアアルカナイカト云フコトガ、大イニ議論
ノ存シテ居ル所デアリマス、是ハ要スル
ニ此課稅基準ヲ昭和五年、六年ニ置イタコ
トト、モウ一ツハ個人ト法人トノ稅率方同
一デアルト云フコトガ餘程問題ニナツテ居
ルノデアリマス、最近此經濟財政ノ影響及
ビ此圖爲替低落ノ爲ニ、久シク不況裡ニ沈
淪シテ居リマシタ所ノ我國ノ産業界ガ、漸
ク恢復ノ曙光ヲ認メマシテ、就中此重工業
及ビ化學工業ナドハ、此兩三年著シク活況
ヲ呈シテ居ツコトハ明白ナル事實デアリ
マス、併ナガラ恢復ハ未ダ全般ニ及ボシテ
居ラス、殊ニ此農村山村漁村及ビ中小ノ商
工業者ノ如キハ、尙ホ甚シイ窮境ニアルノ
デアリマス、全面的ニハマダ不景氣ノ境ヲ
脱シテ居ラスト申シテモ過言デナイト思フ

ノデアリマス、唯經濟界ノ一部ニ政府ノ政
策ニ惠メマシテ、幾ラカ大ナル利益ヲ收
メ、又ハ爲替低落ノ爲ニ其餘光ヲ被リテ居
ル者モアルノデアリマス、是等ニ課稅スル
コトハ社會公正ノ見地ヨリ當然ト論ズル者
ガアルノデアリマス、理論ハ其通りデア
リマス、其課稅ノ方法ニ付テハ十分ナル檢
討、吟味ガ必要デアルト思フノデアリマス、
臨時利得稅ガ宜イカ、或ハ又他ノ課稅ヲ
シタガ宜イカト云フコトハ、理論上、實際
上、慎重ナル考究ヲ要スル必要ガアルト思
フノデアリマス、高橋大藏大臣ハ前刻モ申
サレタ通り、一般増稅ハ其時機デナイト云
フコトモ屢、明言セラレタノデアリマス、
私ハ其通りデアリマス、併シ折角此芽生エ
テ參リマシタ所ノ産業ヲ、此重壓ノ爲ニ幹
ヲ枯死サセル憂ガナイカト云フコトヲ、財
界ノ方デ心配シテ居ル人ガ多イノデアリマ
ス、私モ其事ヲ憂慮シテ居ル一人デアリマ
ス、併シ是ト比較イタシマシテ此稅ハ時局前
ニ於テ……所謂此非常時以前ニ於テ相當多
額ノ利益ヲ擧ゲテ居ルモノニ付テハ、多少ノ
犧牲ヲ拂ハスト云フコトモ社會正義ノ觀念
カラ見マスルト、至當デアルト云フ議論モ
アルノデアリマス、特別課稅ヲスルト云フ
コトモ是モ大イニ考ヘテ見ヌケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、唯此今回ノ利得
稅ハ其事ハ少シモナイノデアリマシテ、前
ニ三割モ四割モ配當シテ居ルモノデアレ
バ……、昭和五年六年ニ於テ……今ハ矢張
リ三割五割配當シテモ課稅ヲ受ケナイト云
フ點ニ付テ非常ニ議論ガアルノデアリマス、
私ハサウ云フ點カラ見マシテ、矢張り此超
過所得ト云フヤウナモノヲ御改正ニナルト
云フコトモ一ツノ方法デナイカト思フノデ
アリマス、殊ニ此個人……個人ノ營業シテ
居リマスモノハ豫算課稅デアリマス、法人
ハ業績課稅デアリマシテ、故ニ多少ノ喰違
ガアルノデアリマス、カルガ故ニ營業收益
稅法ニ致シマシテモ、所得稅法ニ致シマシ

テモ、個人ト法人トニ課稅ノ等差ガアルノ
デアリマス、然ルニ今回ハ個人モ法人モ矢
張り百分ノ十ト云フコトガ非常ニ負擔ノ公
正均衡ヲ缺クト云フ議論ガアルノデアリマ
ス、此點ニ付テ政府ハソレデモ公平デア
ルト云フコトヲ御考ニナツテ居リマスノデア
リマス、此五點ニ付テ大藏大臣ノ御答辯
ヲ煩シタイト思ヒマス

○國務大臣(高橋是清君) 森サンノ御尋ニ
付テ御答ラシマス、矢張り今日増稅ノ時
機ニ非ズ……此稅制整理ト云フ根本問題ニ
付テ立論サレルヤウニ私ニハ受取レルノデ、
先刻モ橋本君ノ御質疑ニ對シテ御答ヲ致シ
タル通り、此臨時利得稅ハ一般租稅制度ノ
根本ニハ觸レテ居ラナイノデアリマス、從
來私ガ唱ヘマシタ所ノ此稅制整理ト云フコ
トハ、一般ノ廣汎ニ互ル租稅ノ制度ヲ改メ
ルト云フ趣意ヲ以テ唱ヘテ居ラノデ、一般
的ノ稅制整理、即チ増稅ノ考ヲ以テ稅制ヲ整
理スルト云フコトハ未ダ其時機ニ非ズト唱ヘ
來ツタノデアリマシテ、此稅制制度ノ根本ニ
觸レナイ臨時利得稅マデモ、其當時ハ考ヘ
テ居リマセヌデシタガ、斯ウ云フ性質ノモ
ノマデイカスト、總テ稅ニ觸レルコトハイカ
スト云フ意味デ言フタ譯デハ決シテナイノ
デ、先ヅ私ガ其時機ニ非ズト……稅制整理
ノ時機ニ非ズト唱ヘタ時勢ニ如何ナル議論
ガ……意見方世ノ中ニ行ハレテ居リマシタ
カ

(副議長伯耆松平賴壽君議長席ニ著ク)
之ヲ追想セラレラナラバ、尙ホ一層此臨時
利得稅ノ制定ニ付テ、其謂ハレ所以アリト
云フコトガ御了解ニナルダラウト思フ、私ガ
何故ニ増稅未ダ其時機ニ非ズト云フコトヲ
強ク唱ヘタカト云フノハ、畢竟世ノ中ニ赤
字公債ヲ出スト云フコトハ宜シクナイ、我
國ノ財政ヲ破綻ニ導クモノデアアル、英國ガ
嘗テ採用シタヤウニ、歐洲大戰前ノ始マル
ニ當ツテ採用シタヤウニ、先ヅ増稅ヲ以テ歲

ノデアリマス、特別課稅ヲスルト云フ
議論モアルノデアリマス、至當デアルト云フ議論モ
アルノデアリマス、特別課稅ヲスルト云フ
コトモ是モ大イニ考ヘテ見ヌケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、唯此今回ノ利得
稅ハ其事ハ少シモナイノデアリマシテ、前
ニ三割モ四割モ配當シテ居ルモノデアレ
バ……、昭和五年六年ニ於テ……今ハ矢張
リ三割五割配當シテモ課稅ヲ受ケナイト云
フ點ニ付テ非常ニ議論ガアルノデアリマス、
私ハサウ云フ點カラ見マシテ、矢張り此超
過所得ト云フヤウナモノヲ御改正ニナルト
云フコトモ一ツノ方法デナイカト思フノデ
アリマス、殊ニ此個人……個人ノ營業シテ
居リマスモノハ豫算課稅デアリマス、法人
ハ業績課稅デアリマシテ、故ニ多少ノ喰違
ガアルノデアリマス、カルガ故ニ營業收益
稅法ニ致シマシテモ、所得稅法ニ致シマシ

ノデアリマス、唯經濟界ノ一部ニ政府ノ政
策ニ惠メマシテ、幾ラカ大ナル利益ヲ收
メ、又ハ爲替低落ノ爲ニ其餘光ヲ被リテ居
ル者モアルノデアリマス、是等ニ課稅スル
コトハ社會公正ノ見地ヨリ當然ト論ズル者
ガアルノデアリマス、理論ハ其通りデア
リマス、其課稅ノ方法ニ付テハ十分ナル檢
討、吟味ガ必要デアルト思フノデアリマス、
臨時利得稅ガ宜イカ、或ハ又他ノ課稅ヲ
シタガ宜イカト云フコトハ、理論上、實際
上、慎重ナル考究ヲ要スル必要ガアルト思
フノデアリマス、高橋大藏大臣ハ前刻モ申
サレタ通り、一般増稅ハ其時機デナイト云
フコトモ屢、明言セラレタノデアリマス、
私ハ其通りデアリマス、併シ折角此芽生エ
テ參リマシタ所ノ産業ヲ、此重壓ノ爲ニ幹
ヲ枯死サセル憂ガナイカト云フコトヲ、財
界ノ方デ心配シテ居ル人ガ多イノデアリマ
ス、私モ其事ヲ憂慮シテ居ル一人デアリマ
ス、併シ是ト比較イタシマシテ此稅ハ時局前
ニ於テ……所謂此非常時以前ニ於テ相當多
額ノ利益ヲ擧ゲテ居ルモノニ付テハ、多少ノ
犧牲ヲ拂ハスト云フコトモ社會正義ノ觀念
カラ見マスルト、至當デアルト云フ議論モ
アルノデアリマス、特別課稅ヲスルト云フ
コトモ是モ大イニ考ヘテ見ヌケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、唯此今回ノ利得
稅ハ其事ハ少シモナイノデアリマシテ、前
ニ三割モ四割モ配當シテ居ルモノデアレ
バ……、昭和五年六年ニ於テ……今ハ矢張
リ三割五割配當シテモ課稅ヲ受ケナイト云
フ點ニ付テ非常ニ議論ガアルノデアリマス、
私ハサウ云フ點カラ見マシテ、矢張り此超
過所得ト云フヤウナモノヲ御改正ニナルト
云フコトモ一ツノ方法デナイカト思フノデ
アリマス、殊ニ此個人……個人ノ營業シテ
居リマスモノハ豫算課稅デアリマス、法人
ハ業績課稅デアリマシテ、故ニ多少ノ喰違
ガアルノデアリマス、カルガ故ニ營業收益
稅法ニ致シマシテモ、所得稅法ニ致シマシ

ニ當ツテ採用シタヤウニ、先ヅ増稅ヲ以テ歲

ノデアリマス、特別課稅ヲスルト云フ
議論モアルノデアリマス、至當デアルト云フ議論モ
アルノデアリマス、特別課稅ヲスルト云フ
コトモ是モ大イニ考ヘテ見ヌケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、唯此今回ノ利得
稅ハ其事ハ少シモナイノデアリマシテ、前
ニ三割モ四割モ配當シテ居ルモノデアレ
バ……、昭和五年六年ニ於テ……今ハ矢張
リ三割五割配當シテモ課稅ヲ受ケナイト云
フ點ニ付テ非常ニ議論ガアルノデアリマス、
私ハサウ云フ點カラ見マシテ、矢張り此超
過所得ト云フヤウナモノヲ御改正ニナルト
云フコトモ一ツノ方法デナイカト思フノデ
アリマス、殊ニ此個人……個人ノ營業シテ
居リマスモノハ豫算課稅デアリマス、法人
ハ業績課稅デアリマシテ、故ニ多少ノ喰違
ガアルノデアリマス、カルガ故ニ營業收益
稅法ニ致シマシテモ、所得稅法ニ致シマシ

入ノ不足ヲ補フヤウニスルガ宜イト云フ議論ガナカ／＼強カッタノデアリマス、而モ其議論ノ波及スル所ハ遂ニ資本家ヲ襲リ、延イデハ資本迄モ憎ムヤウニナツテ來テ居ル有様デアッタノデアリマス、アノ議論ト云フモノガ國民ノ思想ノ上ニ如何ニ影響ヲ及ボシツツアツタカト云フコトハ、諸君アノ當時ノ時勢ヲ顧ミラレタナラバ御合點ノ行ク所モアルダラウト思フ、今日ハソレト反シテ増税論ト云フモノハ殆ド消エタノデアリマス、從テ此資本階級ヲ憎ミ、資本ニ對シテ横暴呼バハリヲスルト云フヤウナコトハ、餘程私ハ薄ライデ來タト思フテ私ハ喜ンデ居ル、故ニ私ノ唱ヘタ増税未ダ其時機ニ非ズト言フ時ハ、其趣旨ハ全ク此今日ノ臨時利得稅迄モ其中ニ含メテ、臨時ノモノト雖モ決シテ増税ハナラヌト云フ意味デ言フタ譯デナイト云フコトハ御承知願ヒタイ、ソレカラ此公債ノ借換ヲ何故シナイカ、低金利ノ政策ヲ執ツテ、サウシテ今日ハ先ヅ不景氣ガ或方面ニ於テハ立直ツテ來タ、低金利ヲ唱ヘテ今日ノ情況ニナツテ來タノダカラシテ、一ツハ公債ノ借換ヲ斷行シタナラバ、大イニ其財源ニナルチヤナイカト云フ御考デアル、即チ五分利公債ヲ四分利ニ借換ヘルノハ譯ナイト云フ御話デアリマス、私ハドウシテ是ガ譯ナイト云フコトニナルカ、實際ニ付テ考ヘルト云フト、是ハ容易ナコトデアリナイデアリマス、併ナガラ期限ノ到來シタモノハ低利公債ニ借換ヘルト云フコトハ、是ハ屢々私ハ聲明シテ居ル所デアリマス、償還期限ノ來タモノハサウスル、未ダ償還期限ノ來ナイモノハ五分利公債ヲ一時ニ四分利ニ借換ヘルト云フノハ、ドウ云フ手段ヲ以テスルノデアルカ、國民ニ向ッテ否應ナシニ四分利ニ甘シヨト云フ命令ヲ下シテスルノデアルカ、ソレナラ理窟ニ於テハ出來ルカモ知レヌ、併シサウ云フコトヲスルコトガ、今日我國ノ政治的、經濟的ニ付テ、果シテソレガ良イモノデアルカナイ

カト云フコトヲ篤ト考ヘネバナラス、借換ト云フコトハ能ク言ヒマス、歐米ニ於テモ借換ト云フコトハ度ミアルケレドモ、償還期限ノ來ナイモノヲ借換ヘル、低利ニ借換ヘルト云フコトハ、度ミ行ハレルコトデアリマス、併ナガラソレヲ行フニ付テハ如何ナル用意ヲ彼等ガシテ居ルカ、決シテ政府ノ力ヲ以テ、國民ノ公債所有者ノ承諾シナイモノニマデ、強ヒテ低利ノ公債ヲ借換ヘルト云フコトハ、決シテシナイノデアリマス、又サウ云フコトハ出來ヤウ管ガナイ、五分利公債ヲ持ッテ居ルモノガ、償還據置期限ノ過ギタルモノハ、是ハ政府ハ何時デモ現金償還ガ出來ルト云フコトニナツテ居ル、故ニ之ヲ現金償還スル代リニ公債ヲ、低利ノ公債ヲ發行スルカ、五分利ヲ低利ニ借換ヘルカト云フコトハ、本人自身ノ希望デ、所有主ノ希望ニ依ッテ申出ヅルナラバ、ソレハ借換ヘテ幾ラカ、百、ポンドナラバ、ポンドニ付テ一「ポンド」ノ増收ヲ與ヘテヤルト云フヤウナ條件ノ下ニ行フノデアル、併ナガラ四分利ハイヤダカラ、現金償還シト云フモノニハ現金償還シテヤル、ソレダケノ現金償還ノ用意ガナケレバ、償還期日到來前ノモノヲ借換ヘルト云フコトハ出來ナイ仕業デアル、今日直面シテ居ル財政ニ於テ、赤字公債ガ據ロナク出ル、其モノデスラ國民ハ心配シテ居ルノデアル、五分利公債三十何億ト云フモノヲ償還スル爲ニハ、ソレダケノ現金ヲ用意スルノニ何ヲ以テ用意ガ出來ルカ、矢張り公債ヲ發行シテ、現金ヲ募ルヨリ外ニ途ハナイノデアル、サウ云フ餘裕ガ今日ハ無いノデアル、併シ御斷リシテ置クガ、償還期限ノ到來スルモノハ、既ニサウ云フ風ニ低利ノ公債ニ借換ヘルト云フ形ニ於テナツテ居ルノデス、ソレハ行ツテ居ル、ソレカラ衆議院ノ修正ニハ絕對不同意デアルノカ、或ハ金額ニ於テ豫算ニ計上シタルモノニ過不足ノナイ、即チ減收ノナイヤウナコトニナレバ、政府ハソレヲ、其修正ニハ同意ノ

ルカシナイカト云フヤウナ御尋デアリマス、是ハ衆議院ノ豫算委員會ニ於テモ私ハ言フテ居ル、豫算ニ計上シテアル收入ノ減ルヤウナコトガアツテハ、決シテ是ハ同意ハ出來ナイ、唯金額ガ不足ガナイト云フバカリデ、後ハドウデモ宜イト云フ意味デハナイ、徵稅ノ方法又其技術上ノ方面ニ於テ差支ナイト云フ程度ノモノデアラナラバ考慮スル、斯ウ云フ次第デアリマス、故ニ今日ト雖モ本案ノ修正ニシテ、歳入豫算ニ積ッテアル歳入ノ、收入ノ金額ニ不足ヲ生ゼズ、又徵稅ノ方法、法理上カラ言フテモ、技術上カラ言フテモ、寧ロ政府ノ原案ヨリハ優ルト云フモノデアルナラバ、政府ハ是ハ考慮シテ然ルベキモノト私ハ考ヘル、ソレカラ此臨時利得稅ハ今折角振興セムトスル我工業、生産業ニ重壓ヲ加ヘルモノデアル、或ハ一般ノ所得稅ナドニ加ヘテ取ツタ方ガ宜クハナイカト云フ風ナ、取方ニ付テノ御考モアラレルヤウデアリマス、此臨時利得稅ニ於テ比例稅ヲ用キマシタノハ、是ハ他ノ所得稅ニ合シテ之ヲ増稅ヲ行フナント云フコトハ到底今日ハ考ヘラレヌノデアリマシテ、比例稅ヲ用キタ譯デアリマス、又産業上ニ重壓ヲ加ヘルト云フ程ノ課稅デハナイト政府ハ信ジテ居リマス、内容ヲ能ク御檢討下サイマシタナラバ、其産業ノ發達ニ成ルベク阻害ノナイヤウニ注意ハ十分ニ加ヘテ、裕リヲ取ツテアル積リデアリマス、ドウカ其邊ヲ然ルベク御檢討願ヒマス、尙ホ詳細ハ他ノ機會ニ於テ御説明ヲ致スコトト致シタイト考ヘマス

○森平兵衛君 只今ノ高橋大藏大臣ノ御懇切ナル御説明ヲ承ツタノデアリマス、私ノ要領ニ觸レテ居ラス點モ少クナイノデアリマス、マダ岡田總理大臣ニ御質問ヲ申上ゲタイ點モアルノデアリマス、是ハ他ノ機會ニ御尋ラスコトニ致シマシテ、今日ノ私ノ質問ハ是デ打切ルコトニ致シマス

○子爵池田政時君 只今議題ト相成リマシタ日本銀行納付金法中改正法律案、臨時利得稅法案ハ、極メテ重要ナル法案デアリマス、其特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、書記官ヲシテ特別委員ノ氏名ヲ朗讀イタサセマス

〔近藤書記官朗讀〕

臨時利得稅法案外一件特別委員

侯爵中御門經恭君	侯爵佐佐木行忠君
伯爵西尾 忠正君	子爵渡邊 千冬君
子爵西尾 忠方君	子爵裏松 友光君
男爵赤松 範一君	桑山 鐵男君
男爵松平外郎君	男爵深尾隆太郎君
倉知 鐵吉君	菅原 通敬君
西野 元君	馬場 鏐一君
森 平兵衛君	松本 眞平君
野村 徳七君	澁澤 金藏君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第六、兵役法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、立見子爵ノ登壇ヲ望ミマス

兵役法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十年三月十一日

委員長 子爵立見 豐丸

貴族院議長公爵近衛文麿殿

〔子爵立見豐丸君演壇ニ登ル〕

○子爵立見豐丸君 委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ三月六日、十一日ノ兩回ニ互リマシテ、陸軍省、海軍省、文部省並ニ法制局ノ政府委員ニ就キマシテ質疑ヲ致シマシタ、本法律案改正ノ主ナル點ハ二點アリマシテ、第一ハ青年學校

創立ニ伴フ兵役法第十一條ノ改正、第二ハ徵兵適齡屆提出期日ヲ繰上ゲマス第二十四條ノ修正デアリマス、其他第三十九條及第五十一條ニ於テ改正ノ點ガアリマスルガ、ソレハ法令改正自然ノ結果、若クハ只今マデ條文ノ解釋ニ依ッテ、擴張ヲシテ行ッテ居リマシタ事項ヲ明ニ示シタケデ大シタコトハアリマセヌ、第二ノ徵兵適齡屆ノ點ハ、只今マデ檢査ヲ受クル年ノ一月末日マデニ適齡屆ヲ差出シマシタノヲ、前年ノ十一月末日マデニ繰上ゲテ、市町村長ノ壯丁名簿調製ノ資料ヲラシメヤウニスルノデアリマシテ、之ニ付テハ大シタ質問モゴザイマセヌ、質問應答ニ主ニ第十一條ノ改正ニ集リマシタ、只今其主ナルモノヲ申上ゲタイト思ヒマス、第一ニ青年學校トハ如何ナルモノナリヤト云フ質問ニ對シマシテ、青年學校ハ男女青年ニ對シテ其心身ヲ鍛鍊シ、徳性ヲ涵養スルト共ニ、職業及實際生活ニ樞要ナル知識技能ヲ授ケ、以テ國民タルノ資質ヲ向上セシメルノ目的ト致シマシテ、普通科二年、本科五年ノ修業年限デアリマス、尙亦其他ニ研究科及専修科ヲ置クコトガ出來マス、普通科ハ尋常小學校卒業者、本科ハ高等小學校卒業者ヲ入レルコトニナッテ居リマス、學科ノ配當ハ、主ニ男子ニ付テ申上ゲマスガ、男子本科ノ低學年ニ於キマシテハ毎年二十時ヲ下ラザル時間ヲ之ニ費シマシテ、修身及公民科並ニ普通學科ニ約三分ノ一、職業科ニ約三分ノ一、教練科ニ約三分ノ一ノ時間ヲ充當シマス、高學年ハ一年百八十時間デアリマシテ、修身及公民科並ニ教練科ニ約半分、普通學科及職業科ニ約半分ノ時間ヲ充當イタシマス云フ答辯デアリマス、次ノ質問ハ青年學校令ハ何時公布サレルカ、並ニ其豫算ハドウ云フ風ニナッテ居ルカト云フ質問ニ對シマシテ、青年學校令ハ既ニ御裁可ヲ得マシテ、本法律案ノ成立ト共ニ同時ニ公

布セラレル準備ガ出來テ居ルサウデアリマス、豫算ニ付キマシテハ、本年度ノ豫算中ニ青年訓練費補助及實業補習教育費補助ノ費目ノ下ニ二百萬圓計上サレテアリマシテ、ソレヲ其儘青年學校ヘ、其目的ノ爲ニ使用サスコトニナッテ居リマス、尙亦其他ニ文部省ノ臨時部ニ青年教育施設費ト云フ所ノ項目ノ下ニモ、青年訓練費補助並ニ實業補習教育費補助ノ費目ガ舉ゲテ居リマス、尙亦其他ニ施設改善ノ爲ニ相當ノ金額ヲ請求セラレルト云フ御話ガアツタヤウニ聞イテ居リマス、次ニ條令中ニ修得ノ程度ト云フノガアルガ、修得ノ程度ト云フノハドウ云フ程度カト云フ質問ニ對シマシテ、今日マデ青年訓練所ハ毎年二百時間、四箇年間ニ八百時間ヲ費シテ居リマシテ、其中教練ガ四百時間、他ノ學課ガ四百時間アリマシタノヲ、今回ニ於キマシテハ青年學校卒業シマセヌデモ、教練三百五十時間、其他ノ時間三百五十時間、合計七百時間ヲ修得シマスレバ、此兵役法ノ特典ヲ受ケ得ル程度ト認メルト云フコトニナルサウデアリマス、次ニ青年學校卒業シタ者ト、今ノ最下限ノ學習ヲシタ者トノ間ニ、兵役年限短縮ノ上ニ付テ何カ差別ヲ設ケル必要ハナイカト云フ問ニ對シマシテ、サウ云フ風ニ服役年限ニ差別ヲ設ケルコトハ、取扱上非常ニ複雑ニナリマシテ實行ハ不可能デアルガ、歸休論衡ノ際ニ有力ナル資料トスルコトハ出來ルト云フ答辯デゴザイマス、次ニ此教育ヲ義務教育トスル考ハナキカト云フコトニ對シマシテ、今日マデ青年訓練所、或ハ實業補習學校ニ入り得ナイ多數ノ青年ガアリマス、ソレニハソレノ其處ニ入ッテ學習シ得ザル事情ガアリマスルガ、ソレ等ノ事情ヲ解消スルコトガ出來ナイ中ニ、之ヲ義務教育トスルコトモ出來マセヌシ、又費用ノ點ニ於テモ困難ナ點ガアリマスルノデ、目下直ニ之ヲ義務教育トスル考ハナイガ、低

學年ノ若干年内デモ義務教育ト云フコトニシタイト云フ考ヲ以チマシテ、目下政府ニ於テ研究中デアルサウデゴザイマス、次ニ青年學校令ハ外地ニモ適用セラレルカト云フ質問ニ對シマシテ朝鮮、或ハ臺灣等ニ於キマシテハ、青年訓練所、若クハ實業補習學校ニ入りマスル生徒ノ素質ニ格段ノ差異ガアリマシテ、之ヲ合併教育スルコトハ甚ダ不便ナ點ガアリマスルノデ、外地ニ於キマシテハ其教育令ヲ改正シマシテ、青年訓練所並ニ實業補習學校ヲ其儘ニ存置スルコトニナルサウデアリマス、而シテ其青年訓練所卒業生ハ兵役年限短縮ノ特典ヲ受ケ得ラレルノデアリマス、終リニ臺灣ニ於テ今回自治擴張ノ企ガアリマスルガ、完全ナル自治ヲ與フル前ニ、兵役法ヲ外地ニ施行スル考ハナイカト云フ質問ガアリマシタガ、是ハ速記ヲ中止シマシテ懇談ヲ致シマシタ結果、政府ニハ目下其意思ガナイト云フコトガ分リマシタ、以上ノ外、尙亦若干ノ質問モゴザイマシタ、大體右ノ通りノ質問應答ヲ終リマシテ、討論ニ入りマシタガ、異議ナク本法律案ハ可決スベキモノナリト決定イタシマシタ、右御報告申上ゲマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガナケレバ本案ノ採決ヲ致シタイト存ジマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト看做シマス

○子爵西大路吉光君 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト看做シマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第三讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第七、勞働者災害扶助法中改正法律案、日程第八、工場法中改正法律案、日程第九、鑛業法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ニ致シタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト看做シマス、委員長島津公爵ノ登壇ヲ望ミマス

勞働者災害扶助法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十年三月十一日
委員長 公爵島津 忠承
貴族院議長公爵近衛文麿殿

工場法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十年三月十一日

委員長 公爵島津 忠承
貴族院議長公爵近衛文麿殿

鑛業法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十年三月十一日

委員長 公爵島津 忠承

貴族院議長公爵近衛文麿殿
〔公爵島津忠承君演壇ニ登ル〕

○公爵島津忠承君 労働者災害扶助法中改正法律案外二件ノ委員會ニ於ケル経過並ニ其結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ニ於キマシテハ最初ニ政府當局ノ説明ヲ求メ、引續イテ質問ニ移リマシタ、茲ニ其要旨ヲ御報告イタシタイト存ジマス、労働者災害扶助法ノ改正ノ第一點ハ、適用範圍ノ擴張デアリマシテ、鐵道、軌道ノ運輸事業及瓦斯、電氣等ノ事業ヲ爲ス土木工事ニシテ、請負ニ出スモノデモ本法ヲ適用スルコトスルノデアリマス、此點ニ關シマシテ從來此種工事ニ於テ、労働者ガ災害ヲ受ケタ場合、如何ニ處理セラレテ居タカトノ質問ガゴザイマシタガ、政府委員ハ從來斯カル工事ニ於テハ、労働者ト雇主トノ人情的解決ニ依ルノ外ハナカッタ思ハレルトノ説明ゴザイマシタ、改正ノ第二點ハ、特殊ノ事業ニ付テ雇主ノ外ニ第二次の扶助責任者ヲ設ケムトスルノデアリマス、此點ニ關シ責任者ノ二人以上存スルコトハ、扶助確保ニハ結構デアリマスガ、實際問題トシテ扶助請求ヲ複雑ニシ、且ツ労働者ニ不便ヲ與ヘルコトハナイカトノ質問ニ對シマシテ、政府委員ハ第一次扶助責任者ハ、直接労働者ヲ使用スル者デアリ、原則トシテ之ニ對シ請求

スルモノデアッテ、唯直接ノ雇主ガ扶助セザル場合ニ事業注文者ニ請求スルノデアルカラ、扶助請求ガ混亂スルコトハナイ旨ヲ答ヘラレマシタ、次ニ改正ノ第三點ハ、扶助ト損害賠償トノ重複ヲ避ケ、扶助ノ時効ハ二年トシ、扶助ノ差押ヲ禁止スル等、扶助ノ法律上ノ性質ヲ明ニシタモノデアリマス、扶助ノ時効ヲ二年トシタル理由ニ關スル質問ニ對シマシテ、政府ハ扶助ハ一面賃銀ノ一種ト見ルベキモノデアリマスルガ、他面ニ於テ扶助ハ一種ノ損害賠償ト見ルベキモノデアリマスカラ、民法ノ損害賠償請求權ノ時効三年ト、賃銀請求權ノ時効一年トノ中間ヲ取リマシテ二年トシタモノデアリ、又労働者災害扶助責任保險法ニ依ル保險金支拂ノ義務ノ時効ガ二年デアリマスカラ、是ト歩調ヲ一ニシタモノデアルトノ答辯ゴザイマシタ、工場法及鑛業法ノ改正ハ労働者災害扶助法ト同一趣旨ニ基クモノデアリマシテ、別段ノ質疑モナク、三案ヲ一括シテ討論ニ入リマシテ、一員ヨリ本改正案ハ現行法實施ノ成績ニ鑑ミ、労働者ノ保護ト共ニ事業者ノ便宜ヲモ考ヘ、何レニモ偏シナイ改正デアリガ、尙ホ將來ニ於テモ災害扶助ニ付テハ十分ナル考慮ヲ拂ヒ、其完璧ヲ期セラレムコトヲ希望シテ、改正法案ニ賛成ノ旨ヲ表明セラレマシタ、次イデ採決ニ移リマシテ、全會一致政府原案通り可決セラレタノデゴザイマス、右御報告申上ゲマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○副議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、三案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直ニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス
○子爵植村家治君 賛成
○副議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○副議長(伯爵松平賴壽君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部、第二讀會決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十、議院法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

議院法中改正法律案
右本院提出案及送付候也
昭和十年三月六日
衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

議院法中左ノ通改正ス
第一條中「四十日」ヲ「二十日」ニ改ム
第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各候補者ヲ選舉シ上奏勅裁ヲ請フヘシ

議長副議長ノ任命ハ親任式ヲ以テ之ヲ行フ
議長副議長ノ親任セララル、マデハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ
第四條 削除
第七條 各議院ノ議長ハ一員副議長ハ二員トス
第十二條中「常任委員會」ノ下「及」ヲ削リ「特別委員會」ノ下ニ「及常置委員會」ヲ加フ
第十五條 削除
第十九條第一項但書ヲ削リ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
議長副議長及議員ニシテ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス但シ死亡シタル者ハ當月マデノ歳費ヲ受ク
同條第三項中「官吏」ヲ「有給官吏」ニ改メ第四項ヲ左ノ如ク改ム
常置委員ハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ閉會中一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク
第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員特別委員及常置委員ノ四類トス
第二十二條ノ二 全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス
常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審查スル爲ニ議院ニ於テ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス
特別委員ハ一事件ヲ審查スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス
第二十三條ノ三 常置委員ハ左ノ事件ヲ審查スル爲ニ議院ニ於テ選舉シ次ノ常會ニ於テ改選セララル、マテ其ノ任ニ在ルモノトス
一 政府ヨリ閉會後引續キ審查ヲ要求シタル議案
二 議院ニ於テ閉會後引續キ審查ヲ要求スト議決シタル議案
三 閉會中政府ヨリ審查ヲ要求シタル事項
常置委員會ハ審查スヘキ事件ノ有無ニ

議院法中改正法律案 第一讀會 一八九

官報號外 昭和十年三月十四日 貴族院議事速記第十六號 労働者災害扶助法中改正法律案外二件 第二、三讀會 議院法中改正法律案 第一讀會 一八九

貴族院議長公爵近衛文麿殿

議院法中改正法律案 第一讀會 一八九

議院法中改正法律案 第一讀會 一八九

議院法中改正法律案 第一讀會 一八九

拘ラス政府ニ出席説明ヲ求ムルコトヲ得
第二十條ノ四 政府ハ前條第一項第三號
ノ事項ニ付兩院各別ニ其ノ審査ヲ要求
スルコトヲ得
第二十一條第二項中「常任委員長」ノ下
「及」ヲ削リ「特別委員長」ノ下ニ「及」常置
委員長」ヲ加フ
第二十二條中「常任委員會」ノ下「及」ヲ削
リ「特別委員會」ノ下ニ「及」常置委員會」ヲ
加フ
第二十三條 全院委員會ハ傍聴ヲ禁ス
常任委員會特別委員會及常置委員會ハ
議員ノ外傍聴ヲ禁ス但シ委員會ノ決議
ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁スルコトヲ得
第二十五條 削除
第二十六條第二項中「政府ノ同意ヲ得タ
ルトキ」ノ下ニ「又ハ出席議員三分ノ二以
上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキ」ヲ加フ
第二十八條中「政府ノ要求ニ由ルモノ」ノ
下ニ「又ハ常置委員會ノ審査ヲ經タルモノ」
ヲ加フ
第三十條中「何時タリトモ」ヲ削リ左ノ但
書ヲ加フ
但シ兩議院ノ一ニ於テ議決ヲ經タルト
キハ其ノ院ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第三十五條但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ常置委員會ニ付託シタルモノハ此ノ
限ニ在ラス
第三十六條 閉會ノ日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定
メ兩議院合會ニ於テ閉院式ヲ行フヘシ
第三十八條中「議長ハ直ニ傍聴人ヲ退去
セシメ」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ發議アリタル場合ニ於テ議長必
要ト認ムルトキハ直ニ傍聴人ヲ退去セ
シムルコトヲ得
第四十一條 削除
第四十四條中「經由シテ」ノ下ニ「國務大
臣及」ヲ加フ
第四十五條 削除

第四十六條中「常任委員會」ノ下「又ハ」ヲ
削リ「特別委員會」ノ下ニ「又ハ常置委員
會」ヲ加フ
第四十八條中「三十人」ヲ「二十人」ニ改
ム
第五十二條中「三十人」ヲ「二十人」ニ改
ム
第五十四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
兩議院ノ一ニ於テ議決シタル政府ノ議
案ノ撤回ニ同意シタルトキハ之ヲ他ノ
議院ニ通知スヘシ
第六十四條第二項中「三十人」ヲ「二十人」
ニ改ム
第六十五條中「政府ニ送付シ事宜ニ依リ
報告ヲ求ムルコトヲ得」ヲ「政府ニ送付ス
ヘシ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
政府ハ請願處理ノ經過ヲ毎年各議院ニ
報告スヘシ
第六十八條中「哀願ノ體式ヲ用ウ」ヲ「相
當ノ敬禮ヲ守ル」ニ「體式ニ違フ」ヲ「體
式ヲ守ラサル」ニ改ム
第八十五條中「開會中」ヲ削リ
第八十七條ノ二 議長ヨリ議場外ニ退去
ヲ命セラレタル者其ノ命ニ服セザルト
キハ議長ハ登院停止ヲ命スルコトヲ得
前項ノ登院停止ノ期間ハ三日トス
第八十七條ノ三 登院停止ヲ命セラレタ
ル者議院外ニ退去セス又ハ登院停止中
登院シタルトキハ會期中登院ヲ停止ス
第八十七條ノ四 懲罰事犯ニ由リ登院停
止ニ處セラレタル者議院外ニ退去セス
又ハ登院停止中登院シタルトキハ前條
ノ例ニ依ル
第九十三條中「議院又ハ委員會」ヲ「議院
内」ニ改ム
第九十五條第三項中「各委員會」ノ下「又
ハ各部」及「委員長」ノ下「又ハ部長」ヲ削リ
第九十六條第一項第三號ヲ左ノ如ク改
ム

リマスルガ故ニ、其特別委員ノ數ハ十五名
トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提
出イタシマス
○子爵植村家治君 賛成
○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動
議ニ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト
認メマス、書記官ヲシテ特別委員ノ氏名ヲ
朗讀イタサセマス
〔近藤書記官朗讀〕
議院法中改正法律案特別委員
侯爵西郷 從德君 侯爵松平 康昌君
伯爵二荒 芳徳君 子爵前田 利定君
子爵大河内輝耕君 子爵岡部 長景君
織田 萬君 男爵東久世秀雄君
塚本 清治君 男爵黒田 長和君
黒崎 定三君 男爵徳川 喜翰君
古島 一雄君 三木與吉郎君
岩崎 清行君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十一ヨ
リ第二十八マデノ請願、會議
意見書案
長崎縣日島郵便局ニ電信電話事務開始
ノ件
長崎縣南松浦郡日島村長松園末吉外
百二十一一名呈出
右ノ請願ハ長崎縣南松浦郡日島村ハ五島
列島ノ中央部西端ニ位シ且漁船ノ出入頻
繁ナル等電信ノ敏速ヲ要スルコト切ナル
ニ拘ラス同村ニ在ル日島郵便局ニハ未電
信電話ノ施設ナキ爲住民ノ利便不便殊カ
ラサルニ依リ之カ事務ヲ開始セラレタシ
ト趣旨ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇
スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十
五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日
貴族院議長 公爵近衛 文麿
内閣總理大臣 岡田啓介殿

意見書案
北海道、朝鮮間ニ國費補助命令定期航
路開設ノ件
北海道函館市長坂本森一外四名呈出
右ノ請願ハ昭和六年來函館市ニ在リテハ
單獨克ク函館ハ朝鮮線指定航路ヲ開設シタ
ルモ昨春大火災ノ慘害ニ遭ヒ復興財政難
ノ折柄本線航路ヲ持續スルニ難ク他面
ニ對滿貿易ノ進展ニ資セムニハ此際須ラ
ク國費ニヨリ運信省命令線トシテ強固ナ
ル定期航路ヲ確立シ配船數並運航度數ヲ
増加スルハ最緊急事ナルニ依リ速ニ之ヲ
開設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願
意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ
議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日
貴族院議長 公爵近衛 文麿
内閣總理大臣 岡田啓介殿

意見書案
第二期林野治水計畫實現促進ニ關スル
件
群馬縣北甘樂郡丹生村大字上丹生二
千三百九十五番地農岡部榮信外十名
呈出
埼玉縣浦和市埼玉縣山林會長飯沼一
省外二百二十七名呈出
東京市赤坂區溜池町一番地全國山林
會聯合會頭男爵小畑大太郎呈出
右ノ請願ハ洪水氾濫ノ主因ヲ爲ス荒廢林
野ニ對スル治水計畫ハ昭和九年度ヲ以テ第
一期事業終了ノ豫定ナルモ尙繼續急務ヲ
要スルモノ及新規施設ニ俟タルヘカラサ
ルモノ抄カラサルニ依リ速ニ第二期治水事
業計畫ヲ樹立セラレ他面疲弊セル農山村
ノ經濟ニ寄與スルヤウ其ノ内容ヲ擴充シテ
實施セラレタシトノ趣旨ニシテ貴族院ハ願
意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ
議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

○子爵池田政時君 只今議題ニ相成リマシ
タ議院法中改正法律案ハ、重要ナ法案デア
三 一定ノ期間登院ヲ停止ス
○子爵池田政時君 只今議題ニ相成リマシ
タ議院法中改正法律案ハ、重要ナ法案デア

○子爵池田政時君 只今議題ニ相成リマシ
タ議院法中改正法律案ハ、重要ナ法案デア

○子爵池田政時君 只今議題ニ相成リマシ
タ議院法中改正法律案ハ、重要ナ法案デア

○子爵池田政時君 只今議題ニ相成リマシ
タ議院法中改正法律案ハ、重要ナ法案デア

○子爵池田政時君 只今議題ニ相成リマシ
タ議院法中改正法律案ハ、重要ナ法案デア

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

財団法人日本少年指導會ニ對シ國庫補助ノ件
東京市杉並區和田本町八百七十二番地財団法人日本少年指導會會長橋本勝太郎外一名呈出

右ノ請願ハ財団法人日本少年指導會ハ専ラ不良少年ノ保護感化ニ努メ其ノ幼少年教化研究部ハ是等少年ノ狀態ヲ科學的研究シ之ヲ指導スルヲ目的トスルヲ以テ専門の特種ノ設備ヲ必要トスルニ拘ラス經濟上所要ノ施設ヲ爲シ能ハサルハ甚遺憾ナルニ依リ國庫ヨリ請願人等所案ノ如ク教化研究費ヲ補助セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

森林火災保險國營ノ件
三重縣北牟婁郡尾鷲町林業士井八郎兵衛外二十名呈出

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林會聯合會頭男爵小畑大太郎呈出
右ノ請願ハ營利保險會社ノ兼營スル森林火災保險ハ其ノ保險料高率ニシテ然モ造林獎勵上最必要ナル幼齡林ヲ嫌忌スルハ森林業ノ安全並金融上甚遺憾ナルニ依リ速ニ森林火災保險國營ノ制度ヲ確立セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

靜岡縣榛原郡下川根村ニ登記所設置ノ件
外二十九名呈出

右ノ請願ハ靜岡縣榛原郡下川根村、志太郡伊久身村大字身成、笹間渡及笹間村大字笹間下ハ各其ノ管轄登記所トノ距離遠ク住民ノ不利不便甚カラサルハ遺憾ナルニ依リ經濟狀態、取引關係等ニ於テ相互緊密ナル之等鄰近三地域ヲ管轄區域トスル登記所ヲ下川根村地内ニ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

林道開設助成ニ關スル件
東京市赤坂區溜池町一番地全國山林會聯合會頭男爵小畑大太郎呈出

右ノ請願ハ林道ノ開設ハ森林開發上緊要ノ對策トシテ既ニ政府ヨリ之ヲ助成費ノ交付アルモ其ノ額僅少ニシテ未山村經濟ノ伸暢ニ資スルヲ得スルヲハ其ノ更生上遺憾ナルニ依リ積極的助成策ヲ講シ以テ繼續實施セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

林野整備促進ニ關スル件
東京市赤坂區溜池町一番地全國山林會聯合會頭男爵小畑大太郎呈出

林野整備促進ニ關スル件
東京市赤坂區溜池町一番地全國山林會聯合會頭男爵小畑大太郎呈出

右ノ請願ハ農林野整備ニ關スル諸般ノ準備對策ヲ完了セルニ拘ラス之カ實行ヲ見サルハ甚遺憾ナルヲ以テ速ニ當初ノ方針ニ準據シ其ノ實現ニ努メラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

最上川改修ニ關スル件
山形縣北村山郡大富村字荷口一番地農業者江彦七外四百四十三名呈出

右ノ請願ハ山形縣北村山郡大富村ハ最上川ノ右岸ニ位スル低地ニシテ往時ヨリ水難相次キ殊ニ近年其ノ傾向著シク爲ニ村民ノ困窮一方ナラサルハ畢竟同川ニ於ケル基點以南ノ堤防工事ノ完成ニ伴フ結果ニ外ナラサルヲ以テ同郡小田島村ヨリ上流ノ堤塘改修工事ヲ施行シ住民救済ノ實ヲ擧ケラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

戰公傷病死者並傷痍軍人ノ遺族扶助料ニ關スル件
石川縣金澤市玉川町三十九番地土族荻名磐外三十五名呈出

石川縣金澤市玉川町三十九番地土族荻名磐外三十五名呈出
名古屋市中區南鍛冶屋町三丁目十五番地土族鈴木富吉外三百三十九名呈出
秋田縣南秋田郡寺内町八橋字八橋農石川聖一外二百二十七名呈出
北海道紋別郡瀧上村平民石立芳太郎外三十名呈出

東京市澁谷區豐分町一番地無職國光侃呈出

島根縣邑智郡市木村九百十三番地農高木藤吉外十六名呈出

秋田縣雄勝郡橫堀町寺澤字本郷百十九番地南半田好松外十六名呈出

東京市淺草區藏前三丁目十四番地六平民澤田新三郎呈出

右ノ請願ハ戰死者、公傷病死者及戰公傷痍者ノ遺族ニシテ生活上窮境ニ陥レル者アルハ國民思想涵養上甚遺憾ナルニ依リ其ノ扶助料ヲ増額シ以テ其ノ生活ヲ安定セシムルト共ニ恩給法實施以前死亡ノ戰公傷者ニ對シ死亡當時同一戸籍内ニ在リタル寡婦ニモ亦扶助料ヲ支給セラレ且傷病年金受給者並戰地ニ於ケル公務傷病者ヲ優遇セラルル等請願人等所案ノ如ク恩給法ヲ改正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

紀勢鐵道速成ニ關スル件
和歌山縣東牟婁郡宇久井村長字佐川輝一外二十一名呈出

右ノ請願ハ紀勢鐵道ヲ全通シ就中其ノ中間線及西線ヲ速成セシムルハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル海陸資源ノ開發上須要ナルニ拘ラサル爾來之カ線延ノ厄ニ遭フコト一再ナララルハ國防上並觀光上亦遺憾甚シキニ依リ速ニ其ノ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文磨
内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

地方財政調整交付金制度設定ノ件

福島縣雙葉郡上岡村長山田六郎外一名呈出

石川縣鳳至郡大屋村長小榮八郎呈出

福島縣西白河郡白河町長關根庫三外十三名呈出

青森縣下北郡脇野澤村長川岸謙吉外三名呈出

靜岡縣加茂郡松崎町長依田四郎呈出

群馬縣吾妻郡長野原町群馬縣町村長會吾妻郡副支部長淺井國三郎外一名呈出

福井縣足羽郡社村種池農業坪川信一呈出

右ノ請願ハ地方財政ノ緩和ヲ圖リ國民負擔ノ均衡ヲ保持スルハ當ニ刻下當面ノ喫緊要務タルヲ確信スルヲ以テ地方自治體ノ財政力ト稅源分布ノ實情ニ鑑ミ速ニ地方財政調整交付金制度ヲ設定セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

愛知縣南設樂郡海老町ニ區裁判所出張所設置ノ件

愛知縣南設樂郡海老町長加藤耕一郎外十一名呈出

右ノ請願ハ愛知縣南設樂郡海老町ハ同郡ノ北端ニ位スル要衝ニシテ近時鐵道ノ開通ニ伴ヒ登記事務激増セルニ拘ラス管轄田口登記所ハ距離遠ク住民ノ不利不便尠カラサルニ依リ同町、鳳來寺村、作手村ノ一部及北設樂郡段嶺村ヲ管轄區域トスル區裁判所出張所ヲ同町ニ設置セラレタ

ク尙其ノ敷地並廳舎ハ地元町ヨリ安價ニ提供スヘシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

矢島線鐵道速成ノ件

秋田縣由利郡矢島町矢島二十三番地士族土田正作外百二十三名呈出

右ノ請願ハ秋田縣由利郡東瀧澤村前郷ヨリ同郡矢島町ニ至ル未成線鐵道矢島線鐵道ハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル資源ヲ開發スルノミナラス運輸交通上亦須要ノ線路ナルニ依リ之ヲ建設起工ハ昭和十二年度ノ豫定ヲ繰上ケ速ニ著手シ以テ同地方ニ於ケル冷害凶作ノ救済ニモ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

北海道江差、瀨棚間鐵道敷設ノ件

北海道久遠郡久遠村大字湯尻村宇湯尻九番地漁業稻船權兵衛外千九百八十名呈出

右ノ請願ハ未成線鐵道江差線鐵道ノ江差町ヨリ瀨棚線鐵道瀨棚驛ニ至ル鐵道ハ沿線地方ニ於ケル豐富ナル農産、林産及礦産ノ資源ヲ開發スルノミナラス殊ニ漁業ノ發展ニ資スル所多ク且國防上亦重要ナルニ依リ之ヲ鐵道敷設法別表ニ編入シ速ニ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

函館驛改築ノ件

北海道函館市長坂本森一外四名呈出

意見書案

右ノ請願ハ北海道函館市ト著シキ進展ニ伴ヒ拓殖事業ト函館市ト著シキ進展ニ伴ヒ貨客ノ吞吐逐年激増セルニ拘ラス同驛ノ設備不完全ニシテ四圍ノ情勢ニ順應セサルハ産業並運輸交通上甚遺憾ナルニ依リ速ニ之ヲ増改築ヲ企圖セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

函館港修築ニ關スル件

北海道函館市長坂本森一外四名呈出

右ノ請願ハ北海道函館港ハ貿易港トシテ重要使命ヲ有スルノミナラス北洋開發ノ策源地トシテ亦港勢頗ニ進展セルニ拘ラス曩ニ著手セラレタル同道第二期拓殖計畫ニ基ク同港ノ修築ハ爾來其ノ工程進捗セス爲ニ出入船舶ノ不便尠カラサルハ産業並交易上甚遺憾ナルニ依リ速ニ之ヲ完成ヲ期セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

意見書案

臘虎臘獸ノ獵獲解禁ノ件

北海道函館市長坂本森一外四名呈出

右ノ請願ハ曩ニ四國協約ノ結果北洋ニ於ケル臘虎、臘獸ノ海上獵獲ハ海驢、海豹等ト共ニ禁止以來其ノ蕃殖ニ十分ナル條約所定ノ期間ヲ滿了シ尙相當ノ日子ヲ經過セルニ拘ラス未解禁セラレス爲ニ斯業者ハ復職ノ機ヲ得ス加之海田ヲ之等海獸ノ荒掠ニ委スルハ甚遺憾ナルニ依リ速ニ之ヲ解禁ノ對策ヲ講セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ヲ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十年 月 日

貴族院議長 公爵近衛 文麿

内閣總理大臣岡田啓介殿

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程ハ是ニテ終了イタシマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日は是ニテ散會イタシマス

午後零時三十三分散會

貴族院議事速記第十四號正誤

頁段	行誤	正
一四四	三〇 海軍	海運
〃	三三 樂觀	遠觀
〃	三四 海軍	海運
一四七	三〇 海運	海軍
〃	三一 購求	供給
〃	四二 借出	貸出
一四八	一 條件	條件
一五〇	一 三種	三種
一五一	四 臣等	眞ノ
〃	九 方氣	萬氣
一五二	三一 五 「スバルタカス」	「スバルタックス」
〃	一九 伴フ	ニ伴フ
〃	二六 宣傳人	宣傳陣